

授 業 概 要

平成25年度

1年次生
2年次生

群馬医療福祉大学 看護学部

〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡787-2

TEL 0274-24-2941

FAX 0274-23-4160

群馬医療福祉大学看護学部看護学科

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考	
		必須	選択				必須	選択		
人文社会科学系	1. 哲学	1	1		医学自然科学系	43. 人体構造機能学Ⅰ	1	1		
	2. 法学（日本国憲法を含む）	1		2		養1・2	44. 人体構造機能学Ⅱ	1	1	
	3. 基礎演習Ⅰ	1	2			45. 人体構造機能学Ⅲ	1	1		
	4. 基礎演習Ⅱ	2	2			46. 人体構造機能学Ⅳ	1	1		
	5. 専門演習Ⅰ	3	1			47. 人体構造機能学Ⅴ	1	1		
	6. 専門演習Ⅱ	4	1			48. 疾病・治療論総論	1	1		
	7. ボランティア活動と自己省察	1	1			49. 疾病・治療論各論Ⅰ	1	1		
	8. 論語	1	1			50. 疾病・治療論各論Ⅱ	1	1		
	9. 人間の心理	1	1			51. 疾病・治療論各論Ⅲ	2	1		
	10. 論理学	1		1		52. 疾病・治療論各論Ⅳ	2	1		
	11. 社会学	1		1		53. 疾病・治療論各論Ⅴ	2	1		
	12. ヘルスカウンセリングの原理と方法	2		1		54. 微生物学	1	1		
	13. 文学論	4		1		55. 生化学	1	1		
	14. 芸術論	4		1		56. 栄養学	1	1		
自然科学系	15. 経済論	2		1	57. 病理学	1	1			
	16. 化学	1		1	58. 臨床薬理薬物論	2	1			
	17. 物理学	1		1	59. 公衆衛生学	1	1	保		
	18. 住環境福祉論	2		1	60. 疫学・保健統計の基礎	2	2	保		
	19. 情報処理演習	1	1		61. 疫学・保健統計の実際	3		2	保	
	20. 統計の基礎	2	1		62. 看護関連法規	3	1		保	
一般教養領域	21. 生活科学	1		1	社会科学系（保健医療福祉）	63. 社会保障制度	2	1		保
	22. 教育と学習の原理	2	2			64. 社会福祉制度	2	1		保
	23. 教育心理学	2		1		65. 医療と倫理	2	1		
	24. 教育方法論	2		2		66. 看護と医療過誤	3	1		
	25. 健康教育論	2		1		67. チーム医療論	3		1	
	26. 教職概論	3		2		68. リハビリテーションの基礎	2		1	
	27. 教育課程論	3		1		69. 保健医療福祉政策論	3		2	保
	28. 道德教育研究	1	2							
	29. 生徒指導論	3		2						
	30. 教育相談論	4		2						
	31. 教職実践演習	4		2						
	32. 教育総合実習Ⅰ	4		2						
	33. 教育総合実習Ⅱ（養護実習）	4		2						
	34. 健康障害児・生徒支援論	3		1						
	35. 教育社会学	3		2						
外国語	36. 基礎英語	1	1							
	37. 医療英語	1		1						
	38. 医療英会話	2		1						
	39. 韓国語	4		1						
スポーツ科学	40. スポーツ科学原理	1	1							
	41. スポーツ演習	1		1						
	42. レクリエーション活動援助法	2		1						
小計							42	43		

授業科目の名称		配当 年次	単位数		備考	授業科目の名称		配当 年次	単位数		備考
			必須	選択					必須	選択	
看護学領域	基礎看護学	70. 看護学概論Ⅰ	1	1		在宅看護学	110. 在宅看護学概論	2	1		
		71. 看護学概論Ⅱ	1	1			111. 在宅看護援助論	2	2		
		72. 看護方法論Ⅰ	1	1			112. 在宅看護援助技術	2	1		
		73. 看護方法論Ⅱ	2	1			113. 在宅看護学実習	3	2		
		74. 基礎看護援助技術Ⅰ	1	1		114. 訪問看護ステーション等経営管理論	4		1		
		75. 基礎看護援助技術Ⅱ	1	1		公衆衛生看護学	115. 地域看護学概論	2	1		保
		76. 基礎看護援助技術Ⅲ	1	1			116. 地域看護学活動論	2	2		保
		77. 基礎看護援助技術Ⅳ	1	1			117. 公衆衛生看護学原論	3		1	保
		78. 基礎看護援助技術Ⅴ	2	1			118. 公衆衛生看護学活動論Ⅰ	3		2	保
	79. 看護論	1	1		119. 公衆衛生看護学活動論Ⅱ		3		2	保	
	80. 看護基礎実習Ⅰ	1	1		120. 公衆衛生看護学活動論Ⅲ		3		2	保	
	81. 看護基礎実習Ⅱ	1	2		121. 公衆衛生看護管理論		3		1	保	
	精神看護学	82. 精神看護学概論	1	2			122. 産業保健論	3	1		保
		83. 精神看護援助論Ⅰ	1	1			123. 養護概説	4		3	養1
		84. 精神看護援助論Ⅱ	2	1			124. 学校保健活動論Ⅰ	4	1		養1・保
		85. 精神看護学実習	3	2		125. 学校保健活動論Ⅱ	4		1	養1	
		母性看護学	86. 母性看護学概論	2	1		126. 公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域実習)	4		3	保
	87. 母性看護援助論Ⅰ		2	1		127. 公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健実習)	3		1	保	
	88. 母性看護援助論Ⅱ		2	1		128. 公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健実習)	3		1	保	
89. 母性疾病論	2		1		統合分野	129. 施設・病棟統合実習	4	2			
90. 母性看護学実習	3	2		130. 看護活動におけるメンバー・リーダーシップ		3	1		保		
小児看護学	91. 小児看護学概論	2	1			131. 感染・災害看護と危機管理(国際協力含む)	3	1			
	92. 小児看護援助論Ⅰ	2	1			132. 看護学教育論	4		1		
	93. 小児看護援助論Ⅱ	2	1			133. クリティカルケア特論	4		1		
	94. 小児看護援助論Ⅲ	2	1			134. 家族援助論	4		1		
	95. 小児看護学実習	3	2			135. 看護研究概論	3	1			
成人看護学	96. 成人看護学概論	1	1		136. 看護研究方法論	3	1				
	97. 成人看護援助論Ⅰ	2	1		137. 看護研究セミナー	4	1		保		
	98. 成人看護援助論Ⅱ	2	1		小計			69	20		
	99. 成人看護援助論Ⅲ	2	1		合計			111	63		
	100. 成人看護援助論Ⅳ	2	1		合計 必修科目数90 必修単位数111 選択科目数47 選択単位数63 卒業要件 必修科目数90 必修単位数111 選択科目数47 選択単位数13 総合計 単位数124 ※保健師免許取得希望者は、「保」の記入科目全ての単位を修得すること ※養護教諭一種免許取得希望者は、「養1」の記入科目全ての単位を修得すること ※保健師免許取得者で養護教諭二種免許取得希望者は「養2」の単位を修得すること						
	101. 成人看護援助論Ⅴ	2	1		卒業要件 1. 「一般教養領域」「看護関連領域」「看護学領域」の必須90科目、111単位を修得すること。 2. 「一般教養領域」(人文社会科学系・自然科学系・教育学系・外国語)と「看護関連領域」の選択科目から各2単位以上の計10単位、「看護学領域」の選択科目から3単位以上を修得すること。 3. 必須111単位、選択13単位の合わせて124単位修得を卒業要件とする。 4. 養護教諭一種免許取得を希望する者は、上記の1.2.3.の要件を充たした上に、「養護教諭一種免許課程」に基づき、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目8単位、養護又は教職に関する科目7単位、教職に関する科目21単位を履修すること						
	102. 臨床看護学実習Ⅰ(成人老年・慢性期)	3	2								
	103. 臨床看護学実習Ⅱ(成人老年・急性期)	3	4								
高齢者看護学	104. 高齢者看護学概論	1	1								
	105. 高齢者看護援助論Ⅰ	2	1								
	106. 高齢者看護援助論Ⅱ	2	1								
	107. 高齢者看護援助論Ⅲ	2	1								
	108. 高齢者看護学実習Ⅰ(老人保健施設等)	3	2								
	109. 高齢者看護学実習Ⅱ(医療施設等)	3	2								

目 次

授 業 内 容

哲学	1
ボランティア活動と自己省察	2
人間の心理	3
論理学	4
化学	5
物理学	6
情報処理演習	7
統計の基礎	8
生活科学	9
基礎英語	10
スポーツ科学原理	11
人体構造機能学 I	12
人体構造機能学 II	13
人体構造機能学 III	14
人体構造機能学 IV	15
生化学	16
看護学概論 I	17
看護学概論 II	18
基礎看護援助技術 I	19
基礎看護援助技術 II	20
法学	21
医療英語	22
スポーツ演習 I	23
人体構造機能学 V	24
疾病・治療論総論	25
疾病・治療論各論 I	26
疾病・治療論各論 II	27
微生物学	28
栄養学	29
病理学	30
臨床薬理学・薬物論	31
看護方法論 I	32
基礎看護援助技術 III	33
基礎看護援助技術 IV	34
看護論	35
看護基礎実習 I	36
精神看護学概論	37
精神看護援助論 I	38
成人看護学概論	39
高齢者看護学概論	40

福祉住環境論	41
教育と学習の原理	42
医療英会話	43
レクリエーション活動援助法	44
疾病・治療論各論Ⅲ	45
疾病・治療論各論Ⅳ	46
疾病・治療論各論Ⅴ	47
リハビリテーションの基礎	48
看護方法論Ⅱ	49
基礎看護援助技術Ⅴ	50
精神看護援助論Ⅱ	51
母性看護学概論	52
母性看護援助論Ⅰ	53
母性疾病論	54
小児看護学概論	55
小児看護援助論Ⅰ	56
成人看護援助論Ⅰ	57
成人看護援助論Ⅱ	58
成人看護援助論Ⅲ	59
高齢者看護援助論Ⅰ	60
在宅看護学概論	61
ヘルスカウンセリングの原理と方法	62
経済学	63
教育心理学	64
教育方法論	65
健康教育論	66
公衆衛生学	67
看護基礎実習Ⅱ	68
母性看護援助論Ⅱ	69
小児看護援助論Ⅱ	70
小児看護援助論Ⅲ	71
成人看護援助論Ⅳ	72
成人看護援助論Ⅴ	73
高齢者看護援助論Ⅱ	74
高齢者看護援助論Ⅲ	75
在宅看護援助論	76
在宅看護援助技術	77
地域看護学概論	78
地域看護学活動論	79

科目名	哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	儒教 論語 孔子 孟子 老荘思想				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝悌について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉て国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学その伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに閑せず節操を持つべきを子略に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	ボランティア活動と自己省察	担当教員 (単位認定者)	足立 勤一 看護学部専任教員	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	ボランティア活動 人間形成 自己省察 自己課題				

■授業の目的・到達目標

本学の求めているボランティア活動は、「対人支援・援助」のあり方を学ぶための人間学の根本と位置付けている。ここでは、建学の精神に基づき、保健医療福祉に関する諸団体・施設等でのボランティア活動を行い、それらの活動を通して、自己課題を見出し、今後の看護活動に生かしていくことを目標とする。

■授業の概要

・ボランティアの語源や歴史、意義や目的、活動の種類、実践のために必要な知識・技術・態度を学習する。
・病院・施設等でのボランティア体験を通して、自己を省察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 本学のボランティア活動について
第2回	ボランティア活動とは (GW)
第3回	ボランティア活動の目指すもの (GW)
第4回	ボランティア活動の実際に向けてオリエンテーション【活動カード、記録の書き方、諸注意等の説明】
第5回	ボランティア活動の計画【年間予定表作成、自己依頼施設の選定、事前学習】
第6回	ボランティア活動の計画【年間予定表作成、自己依頼施設の選定、事前学習】
第7回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際
第8回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際
第9回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際
第10回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際
第11回	ボランティア活動を通しての自己省察 (GW)
第12回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表準備
第13回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表準備
第14回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表 (プレゼングループ発表)
第15回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表 (プレゼングループ発表)

■受講生に関わる情報および受講のルール

ボランティア活動を積み重ねることによって、自分自身の新たな問題点や課題を発見し、社会に貢献できる看護専門職者として成長していくことを求める。

- ・本学のボランティア活動ハンドブックをよく理解しておくこと。
- ・それぞれのボランティア施設について良く調べてから活動していくこと。
- ・既習の知識や技術をもとにボランティアが実践できるよう復習しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。
大学生として、社会の一員としてのモラルを忘れず育てていくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ボランティア体験およびグループワークにおける態度・記録等を、まとめのレポートの内容に基づき評価する。
ボランティア活動内容の記録50%、グループ発表20%、個人課題レポート30%

■教科書

鈴木利定監修 足立勤一・森慶輔編集「ボランティア活動ハンドブック」
岡本栄一監修 守本他編著「ボランティアのすすめ 基礎から実践まで」 ミネルバ書房

■参考書

必要に応じて適宜提示する。

科目名	人間の心理	担当教員 (単位認定者)	清水 敦彦	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	人間の心理				

■授業の目的・到達目標

心理学は、人間の心や行動を理解する学問であるが、看護教育の場で学習するときには、

- ①学生が自己自身をよく理解することである。
- ②患者の心理をよく理解するためである。患者に接する場合、患者の行動・知能・性格・情緒などをよく理解しなければならないし、もっと広く様々な人間関係も理解する。

■授業の概要

科学としての心理学は約200年前といわれているが、その後の発展について講義するとともに、人間の心や患者の心理について講義する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	心理学の定義と方法、知覚の心理
第2回	記憶・忘却の心理
第3回	知能の心理と知能検査。学習の心理
第4回	感情・情緒・情操の心理。
第5回	適応の心理
第6回	性格の心理と性格検査
第7回	集団の心理と発達の心理
第8回	カウンセリングと医療の心理学

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・板書、口述の内容は整理しておくこと。
- ・授業終了後に毎時間出題されるレポートは必ず提出すること。
- ・欠席数が5回以上超えると定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・レポートの作成。
- ・次の時間の教科書に目を通しておくこと。

オフィスアワー

なし

■評価方法

目安：定期試験80%、課題提出と授業態度総合して20%。総合的に評価する。

■教科書

辰野 千尋 著 系統看護学講座基礎分野 心理学 医学書院

■参考書

大村政男・清水敦彦外著 心理学概論 福村出版

科目名	論理学	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	三段論法、内包外延、判断、推理、帰納、演繹				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

正しい思考の形式及び法則を学び、正しく考え、真の知識に到達するための基本を習得する。

〔到達目標〕

- ①基本的な記号の意味と使い方が分かる。
- ②主要な論理法則の意味を理解し、日常で正確に使うことが出来る。
- ③論理式の簡単な変形ができる。

■授業の概要

最初にアリストテレス以来の三段論法を中心とする伝統的論理学を学び、次に現代の命題論理を中心とする記号論理学を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション、言語と論理
第2回	概念と定義
第3回	判断と命題
第4回	直接推理①
第5回	直接推理②
第6回	直接推理③
第7回	間接推理①
第8回	間接推理②
第9回	間接推理③
第10回	命題論理①
第11回	命題論理②
第12回	命題論理③
第13回	演繹法と帰納法
第14回	論証の批判と検討①
第15回	論証の批判と検討②

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ 板書、口述内容は定期試験に重要なのでノートに整理すること。
- ・ 小論文、レポートは必ず提出すること。
- ・ 5回を超える欠席は、定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習復習は、予習を重点に学習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験、小論、レポート及び出席状況を総合的に判断する。(目安) 試験結果70%、小論、レポート及び出席状況30%

■教科書

「論理学入門」千葉茂美・東千尋・若山玄芳著 学陽書房

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	化学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	物質の構成、物質の状態、物質の反応、有機化合物				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物質についての知識を得るとともに、自然科学の考え方を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①さまざまな物質の構成や状態、性質を理解できる。
- ②化学反応の種類や表し方を理解し、量的な関係が把握できる。
- ③今後の生化学・医学・薬学等の学習について基礎ができています。

■授業の概要

元素の種類を知り、元素記号や原子の結合、化学式を学習する。化学反応に伴う量的な扱い方を学ぶとともに基本的な化学反応の種類を知る。有機化合物の構造、性質を学ぶことで将来の他分野への基礎とする。

syurui

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	はじめに I 物質の構成 (1) 1 物質の構成
第2回	I 物質の構成 (2) 2 粒子の結合
第3回	I 物質の構成 (3) 3 粒子の相対質量と物質質量
第4回	II 物質の状態 1 物質の三態 2 気体 3 溶液
第5回	III 物質の反応 (1) 1 化学反応と熱・光 2 化学反応の速さと化学平衡
第6回	III 物質の反応 (2) 3 酸と塩基の反応 4 酸化と還元 5 電池と電気分解
第7回	IV 有機化合物 1 有機化合物の分類と分析 2 脂肪族化合物 3 芳香族化合物
第8回	V 人間生活と物質 1 天然有機化合物 2 生活と物質 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。

〔受講のルール〕

- ・プリント、教科書を使用し、板書も行うが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。
- ・わからないことがあった場合は、その場でまたは授業後、あるいは次の授業の始め等に質問するか、カードに書くなどしてそのままにしないこと。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

復習を中心に、授業で扱った問題は自分でもう一度解き直すようにすること。また、化学を理解するためには、抽象的な記号や式だけを見ていても不十分なので、教科書の図をよく見てできるだけ具体的なイメージを持つようにすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

数研出版編集部：フォトサイエンス 化学図録，数研出版，2013

■参考書

授業時に指示する。

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	運動、力、エネルギー、波動、電磁気、原子				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	I はじめに II 力学の基本
第2回	III 物体の運動
第3回	IV 物体の運動と力、運動量
第4回	V 圧力とモーメント
第5回	VI 仕事とエネルギー、熱
第6回	VII 波と音・光
第7回	VIII 電流と磁気
第8回	IX 原子の構造と放射線 X まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。

〔受講のルール〕

- ・教科書・プリントを使用し、板書も行うが、中心は講師の話である。説明をよく聞いて理解に努めること。
- ・わからないことがあった場合はいつでも質問してよい。わからないことをそのままにしないこと。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

葉子 研:まるわかり!基礎物理,南山堂,2011

■参考書

授業時に指示する。

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	Word, Excel, レポート作成				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]
レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする

[到達目標]
①パソコンの基本的な操作を理解する
②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる
③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使ってレポートなどの各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	(概論) オリエンテーションとキーボード・マウスの操作練習
第2回	(概論) ホームページの利用と情報セキュリティ
第3回	(概論) メールアドレスの取得とメール送受信
第4回	(Word) 基本的な文章の入力とファイル操作
第5回	(Word) 各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
第6回	(Word) 表を含む文書の作成
第7回	(Word) 図形を含む文書の作成
第8回	(Word) 同じ体裁の文書を効率よく作成する(テンプレート、スタイル)
第9回	(Excel) Excelの基本操作
第10回	(Excel) 各種の書式設定と図形等の利用
第11回	(Excel) グラフの作成(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、複合グラフ)
第12回	(Excel) データベースとしてのExcelの利用(並べ替え、フィルタ、集計)
第13回	(Excel) 数式と関数の利用
第14回	(Word/Excel共通) Word/Excel間のコピーと貼り付け、その他補足事項
第15回	レポート作成実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]
・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

[受講のルール]
・積極的に授業に臨むこと。
・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート課題による評価(100%)

■教科書

パソコン教科書 Word/Excel/PowerPoint2007:東京法令出版、2010年

■参考書

授業時に指示する。

科目名	統計の基礎	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然化学系」			
キーワード	量的データ 統計学				

■授業の目的・到達目標

近年のコンピューターの発達に伴い、看護学の分野で統計的手法を用いた研究が多くなり、こうした手法を理解することは今後ますます重要になってきている。看護学研究を行う上での分析手法である統計学を習得し、研究を円滑に行っていく力を身につけることを到達目標とする。

■授業の概要

統計学の基礎的な理論について学習し、さらに看護学に関連するデータを用いて、演習形式で学習する。また統計的手法を用いた実証分析の方法についても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	イントロダクション
第2回	統計表の読み方
第3回	データの性質
第4回	分布の代表値
第5回	無作為抽出
第6回	クロス集計
第7回	グラフ作成
第8回	データのちらばり
第9回	相関
第10回	パソコン演習Ⅰ
第11回	パソコン演習Ⅱ
第12回	質的データ分析Ⅰ
第13回	質的データ分析Ⅱ
第14回	社会調査の手法Ⅰ
第15回	社会調査の手法Ⅱ

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP等を参照して復習すると、理解がより深まる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	生活科学	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「自然科学系」			
キーワード	家族、衣・食・住・家庭管理、生活科学、生活文化				

■授業の目的・到達目標

「生活を科学する」習慣を身につけることによって、賢く豊かな生活を営めるようになる。また、「生活文化」の知識をコミュニケーションに活かすことはもとより、国際人として日本の文化を語れるようになる。

■授業の概要

一見当たり前に過ごしている日常生活そのものの本質を知るとともに、生活用品・用材の基本構造や各生活事象の背景にある原理・原則について解説する。さらに、衣食住における日本独自の文化についても言及する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス：「生活を科学する」とは？
第2回	「生活科学チェックテスト」の実施（生活者としての習熟度チェック）
第3回	家庭生活の経営と管理：家族・家庭生活 生活設計 生活時間
第4回	家庭生活の経営と管理：「ライフコース」の作成
第5回	家庭生活の経営と管理：家庭経済と消費生活 消費生活の課題
第6回	食生活：栄養と調理
第7回	食生活：食文化
第8回	衣生活：衣服の役割と機能 衣服の選択
第9回	衣生活：被服素材と品質表示 被服の衛生
第10回	衣生活：被服の管理
第11回	衣生活・住生活：洗淨理論
第12回	住生活：住居の役割と機能 快適な室内環境
第13回	住生活：住居の安全と管理 バリアフリーとユニバーサルデザイン
第14回	生活文化：生活の中の文様・色彩 年中行事
第15回	まとめ：生活を統合する

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、日用品や食材の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験（60％） 提出物（40％）

■教科書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）2004年

■参考書

授業時に指示する。

科目名	基礎英語	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域科目における「外国語」			
キーワード	基礎英語				

■授業の目的・到達目標

- 1) 英文の情報を早く正確に把握できる。
- 2) 医療関連記事を理解できる。
- 3) 入学までに身につけた単語を使って日常会話が行える。

■授業の概要

医療関連の記事をグループで担当し、発表する形式で進める。理解を深めるために新聞記事の使用や文法事項の復習する。
基礎的コミュニケーション技術を身につけるため、聴き取りや役割練習を取り入れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	Chapter1: Polio	数字の示す内容を読み取る。医学用語の略語に慣れる。
第2回	Chapter2: Personal Prescription	処方文を読み、命令形の復習と習得を図る。
第3回	Chapter4: Anti-Diarrheal	表から薬の種類、服用回数、服用量を読み取る。
第4回	Chapter3: Hay fever	症状を読み取る。症状表現のhaveと現在完了形のhave
第5回	Chapter10: Food Allergies and Food Intolerance	各パラグラフの要点をつかむ。症状の単語数を増やす。
第6回	Chapter5: Sleeping Problem	分数、少数点、パーセントの表現方法を学ぶ。身体部位の単語 (p.74) を覚える。
第7回	Chapter6: SARS	記事内容についての英問英答。継続の現在完了形。
第8回	Flue Shots (pp.64-65)	内容理解度テスト (pp.65-66) に挑戦する。
第9回	Chapter7: Diabetes	長い主語に慣れる。臓器の名前 (p.75) を覚える。
第10回	Chapter8: Arterial Diseases	原因、結果、対策を読み取る。Vital signs測定の話練習。
第11回	Chapter11: Carpal Tunnel Syndrome	CTS が起きる仕組みと症状を読み取る。経験の現在完了形
第12回	筋骨格の症状の表現 (p.70) を覚える。痛みについての聴き取り (p.15, p.19) を行う。	
第13回	Chapter 12: Sports Related Injuries and Conditio	記事の要旨をまとめる。医療単語の接頭辞と接尾辞
第14回	資料1: Smoking Tobacco Is Suicide	長文を速読し、タバコの害を知る。
第15回	資料2: The AIDS Concerns Everyone	グラフや表から統計的な数値の意味を理解する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

英文読解では音読がとても役立ちます。単語の意味がわからなくても、とにかく二回は音読をして授業に臨んで下さい。そして発表担当者は英文の字面だけ訳すのではなく、自分の言葉でわかりやすく内容を伝える努力をして下さい。聴き取りやペアワークは、英語を聞いたり話したりする貴重なチャンスと考え、耳と口を十分に働かせて下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験により総合的に判断する。

■教科書

English for Medicine KINSEIDO

■参考書

授業時に指示する。

科目名	スポーツ科学原理	担当教員 (単位認定者)	高椅 良枝	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「スポーツ科学」			
キーワード	スポーツ科学原理				

■授業の目的・到達目標

健康・体力づくりへの意欲を高め、運動に関する有効な原理原則を知り、対象者の健康(体力)の保持増進及び生活の快を提供できる支援者として、現場で積極的に役立て活動できるようになる。

■授業の概要

基礎知識(心・体・医)の正しい知識を学び、技術の体験を通して効果的な運動の方法を学習し、健康管理と生活意欲の向上を図り、スポーツコミュニケーション能力を身につけ、日常生活及び活動現場において、実践できるように学習する。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション (授業の進め方及びコミュニケーション・トレーニング)
第2回	運動と体力・健康づくり
第3回	身体調整法・ストレッチング
第4回	スポーツの外傷と障害・予防と対応
第5回	スポーツコミュニケーション
第6回	運動の習慣づけ
第7回	筋力トレーニング
第8回	まとめと評価

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義は資料プリントに沿って行う。
実技も実施するので学校指定のジャージ上下と体育館シューズを準備してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70% 受講態度 20% 出席状況 10% (遅刻2回で欠席1回とカウントする)

■教科書

資料プリントで対応

■参考書

随時検討

科目名	人体構造機能学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	解剖学、生理学、細胞、組織、血液、免疫				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	解剖学・生理学とは
第2回	解剖学的用語
第3回	ホメオスタシスとフィードバック機構
第4回	細胞の構造と機能
第5回	人体を構成する4種の組織
第6回	体内の膜と皮膚
第7回	体熱産生と体温
第8回	総論の確認テストと解説
第9回	血液の成分と物理化学的特性
第10回	血漿・血球の機能
第11回	凝固と線溶
第12回	血液の確認テストと解説
第13回	特異的生体防御機構と非特異的生体防御機構
第14回	免疫とアレルギー
第15回	免疫系の確認テストと解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	解剖学、生理学、骨、筋肉、循環器、呼吸器				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	骨と骨格
第2回	頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格
第3回	関節の構造と機能
第4回	筋の種類と機能
第5回	骨格筋の解剖生理
第6回	筋、骨格筋系のまとめ
第7回	心臓の構造
第8回	心臓の機能
第9回	血管の形態と機能
第10回	リンパ系の器官と機能
第11回	循環器系の確認テストと解説
第12回	呼吸器系の構造と機能
第13回	肺の名称と肺胞の構造と機能
第14回	呼吸のプロセスと調節
第15回	呼吸器系の確認テストと解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサプリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	解剖学、生理学、消化器、腎・泌尿器				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	食欲の調節機構
第2回	口腔の構造と機能
第3回	咽頭・食道の構造と機能
第4回	胃の構造と機能
第5回	小腸の構造と機能
第6回	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能
第7回	糖質・脂質・蛋白質・ビタミンの消化と吸収
第8回	排泄 大腸の構造と機能
第9回	消化器系の確認テストと解説
第10回	腎臓の構造と機能
第11回	尿の生成、血液成分の調節
第12回	尿管・膀胱・尿道の構造と機能
第13回	排尿の生理
第14回	泌尿器系の確認テストと解説
第15回	消化器系及び泌尿器系のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学Ⅳ				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	内分泌系とホルモンの作用機序
第2回	脳にあるホルモン分泌器官Ⅰ
第3回	脳にあるホルモン分泌器官Ⅱ
第4回	甲状腺のホルモンの機能
第5回	上皮小体のホルモンの機能
第6回	副腎のホルモンの機能
第7回	膵臓のホルモンの機能
第8回	消化管のホルモンの機能
第9回	内分泌系の確認テストと解説
第10回	生殖と生殖器の概念と特徴
第11回	女性生殖器の構造と性周期
第12回	妊娠と出産
第13回	男性生殖器の構造と機能
第14回	勃起と射精
第15回	生殖器系の確認テストと解説

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	生化学	担当教員 (単位認定者)	高木 勝広	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	物質代謝、エネルギー代謝、代謝異常				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

生体構成分子を化学的に理解するとともに、生体の持つ代謝機能と代謝異常(疾患)について理解することを目的とする。

[到達目標]

- ①生体成分を化学的に理解する。
- ②各物質代謝の生理学的役割、調節のメカニズムを理解する。
- ③各物質代謝の相互関係や位置づけを複合的に理解する。
- ④代謝異常(疾患)を理解する。

■授業の概要

生体内では物質代謝、自己保持の免疫反応や遺伝子の働き等が整然と進んでいる。ここでは人体内における物質代謝、エネルギー代謝などのメカニズムについて物質的側面と機能的側面から理解を深め、主要な代謝経路を理解する。さらに代謝調節と代謝異常について講述し、人体に関する知識を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	生化学を学ぶための基礎知識(化学の基礎知識・細胞の構造と機能)
第2回	生体を構成する物質① 糖質
第3回	生体を構成する物質② 脂質
第4回	生体を構成する物質③ タンパク質
第5回	酵素①
第6回	酵素と補酵素② ビタミンと補酵素
第7回	糖質代謝① 糖質代謝総論、解糖
第8回	糖質代謝② クエン酸回路と電子伝達系
第9回	糖質代謝③ 糖新生、ペントースリン酸回路、グリコーゲンの代謝他
第10回	脂質代謝① リポタンパク質、脂肪酸の合成と分解
第11回	脂質代謝② コレステロールの生合成と利用 ホルモンによる糖質・脂質代謝の調節
第12回	タンパク質代謝① タンパク質の分解、アミノ酸代謝
第13回	タンパク質代謝② 尿素サイクル、非必須アミノ酸の合成
第14回	核酸代謝
第15回	代謝異常と疾患

■受講生に関わる情報および受講のルール

各物質代謝の生理学的役割、調節のメカニズム等を複合的に理解し、自身の言葉で人に説明できるようになることを意識して学業に取り組んでください。また誠意ある態度での受講を求めます。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

小テスト(20%)、学期末定期試験(80%)等で評価します。

■教科書

系統看護講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能[2] ISBN978-4-260-00672-9

■参考書

林典夫、廣野治子編:シンプル生化学[改訂第5版] 南江堂
遠藤克己、三輪一智共著:生化学ガイドブック改訂第3版増補 南江堂

科目名	看護学概論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	中溝・菅沼他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	人間・環境・健康・生活・看護				

■授業の目的・到達目標

【授業目的】

看護とは何かを探求するとともに、看護学を構成する主要概念としての人間・環境・健康・生活の理解を深め、看護学を学ぶ基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ① `看護とは何か` が理解できる。
- ② 看護の独自性・専門性が理解できる。
- ③ 看護の対象である人間はどのような存在であるか理解できる。
- ④ 健康の法則について理解できる。
- ⑤ 人間と環境との関係について理解できる。

■授業の概要

1. 学生自身の病気体験や看病を受けた体験を通して「看護とは何か」「健康とは何か」「病気とは何か」を考え、理論と結び付けて教授する。
2. すべての人間は共通性と個性をもった唯一無二の存在であること及び人間の可能性を考える機会とする。
3. 学生自身の生活を通し、「生活とは何か」「環境とは何か」について教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、看護学概論で何を学ぶのか
第2回	看護とは何か-看護の原点-歴史の変遷〔1〕
第3回	看護とは何か-看護の概念及び定義に関する諸説〔2〕
第4回	看護とは何か-Notes on Nursing〔3〕
第5回	看護の対象である人間はどのような存在か-人間であることとは〔1〕
第6回	看護の対象である人間はどのような存在か-統合体としての人間〔2〕
第7回	看護の対象である人間はどのような存在か-人間のライフサイクルと発達課題〔3〕
第8回	看護の対象である人間はどのような存在か-人間の生活〔4〕
第9回	人間と環境-環境とは・生活と環境との相互作用
第10回	健康と看護-健康の法則・健康の定義・健康に影響する要因〔1〕
第11回	健康と看護-健康に生きるとは〔2〕
第12回	病気とは-看護の視点で考える〔1〕
第13回	病気とは-人間がやむとは〔2〕
第14回	看護師に求められる能力とは〔1〕
第15回	看護師に求められる能力とは〔2〕・まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験70%、レポート30%

■教科書

藤崎都他：系統看護学講座 専門分野1 看護学概論基礎看護学①, 医学書院, 2011.
 時実利彦：人間であること, 岩波新書.
 F. ナイチンゲール（湯楨ます・薄井坦子他）：看護覚え書, 現代社, 2011.

■参考書

授業中に適宜紹介

科目名	看護学概論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	中溝・菅沼他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	保健医療システム・教育とキャリア開発・制度政策・看護倫理				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

看護職や看護職が協働する医療職の役割、チームのあり方、協働と連携、倫理について学び、看護者としての基礎的知識と内的規範を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①チーム医療に携わる様々な職種を把握し、チームの機能を理解できる。
- ②看護サービスの提供の場と、それぞれの場における看護の果たす役割について理解できる。
- ③看護に関わる様々な法制度を理解できる。
- ④看護倫理をめぐる社会的背景を理解し、看護職者としての内的規範を身につける。

■授業の概要

1. 看護の機能する場・就業状況・看護管理システムについて教授する。
2. 保健・医療・福祉が地域で生活している人々にどのように関わっているかを身近なものとして繋げて具体的に教授し、看護職の果たす役割について考える機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、看護職者の教育とキャリア開発
第2回	看護の機能する場と役割及び看護職の就業状況〔1〕
第3回	看護の機能する場と役割及び看護職の就業状況〔2〕
第4回	保健医療福祉システムと看護
第5回	看護管理-看護管理システム・組織・看護サービスにおけるマネジメント
第6回	看護をめぐる制度・政策
第7回	看護における倫理〔1〕
第8回	看護における倫理〔2〕

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験

■教科書

藤崎都他：系統看護学講座 専門分野1 看護学概論基礎看護学①, 医学書院, 2011

■参考書

授業中に適宜紹介

科目名	基礎看護援助技術Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口・石川・ 小林,他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	安全・安楽・日常生活・援助技術				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

看護援助に必要な基礎的知識を学び、安全・安楽を基盤とした共通および日常生活援助における基本技術を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 看護における援助技術の意義を理解できる。
2. 看護を安全に提供するために必要な知識を理解し、看護者としての感染予防の為の衛生的な手洗いができる。
3. 看護に必要な共通基本技術を理解し、人間関係を発展させる為の技術を習得する。
4. 活動と休息の意義と基本技術に必要な知識を理解し、基本的活動の援助技術を習得する。
5. 環境調整の意義と必要な知識を理解し、病床環境の整備ができる。
6. 苦痛の緩和と安楽確保の意義と必要な知識を理解し、その援助技術を習得する。

■授業の概要

基本的看護技術である日常生活の援助技術を身体の機能的・効果的な活用の基盤となる人間工学的な面から学習し、看護ケアの中で活用できるよう教授する。また、対象の安全や安楽に配慮しつつ科学的な根拠に基づく看護技術を講義・演習を通して教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 看護技術論
第2回	感染防止の技術 (演習) 衛生的な手洗い
第3回	人間関係を発展させる技術 患者や家族とのコミュニケーションに必要な基礎知識
第4回	環境調整の技術 [1]
第5回	環境調整の技術 [2] (演習) 病床環境の整備・ベッドメイキング
第6回	環境調整の技術 [3] (演習) 病床環境の整備・ベッドメイキング・シーツ交換
第7回	活動と休息の援助技術 [1]
第8回	活動と休息の援助技術 [2]
第9回	活動と休息の援助技術 [3] (演習) ボディーメカニクス・姿勢と体位
第10回	活動と休息の援助技術 [4] (演習) 安楽な体位・体位変換
第11回	活動と休息の援助技術 [5] (演習) 移動・移乗・移送①
第12回	活動と休息の援助技術 [6] (演習) 移動・移乗・移送②
第13回	苦痛の緩和・安楽確保の技法 [1]
第14回	苦痛の緩和・安楽確保の技法 [2] (演習) 電法・マッサージ
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・演習は白衣、ナースシューズを着用。
- ・頭髪・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。

〔受講のルール〕

講義までに事前学習課題を学習してくる。

■授業時間外学習にかかわる情報

1. 看護技術の習得は1回の演習ではできないので、繰り返し演習して身につける。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 (80%)、提出物 (20%) に出席状況、学習態度、演習の参加態度など総合して評価する。

1. 提出物は、提出状況、内容の目標到達状況により評価する。

■教科書

1. 有田清子他:基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2012.
2. 藤崎郁・任和子編集:基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2012.
3. 氏家幸子他:基礎看護技術 第7版、医学書院、2012.

■参考書

阿曾洋子・井上智子・氏家幸子:基礎看護技術、医学書院、2012.

科目名	基礎看護援助技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口・ 石川・小林	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	観察・バイタルサイン測定・清潔・衣生活				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

看護援助に必要な基礎的知識を学び、観察技術、安全・安楽を基盤とした日常生活における基本技術を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 看護にとっての観察、記録、報告の必要性・意義について理解できる。
2. 看護の観察に必要とされるバイタルサインについて理解し、測定方法を習得する。
3. 観察・測定技術を踏まえ、呼吸・循環を整える援助技術を習得する。
4. 身体の清潔・衣生活の意義及び基礎的知識を学び、清潔・衣生活の援助技術を習得する。

■授業の概要

基礎看護援助技術Ⅰで学習した内容に引き続き、基本的看護技術である日常生活の技術と診療に伴う技術を対象の安全や安楽に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を講義、演習を通して教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目に対するオリエンテーション、観察・記録・報告
第2回	バイタルサインとは バイタルサイン測定とは〔1〕
第3回	バイタルサイン測定の方法〔2〕(演習)
第4回	バイタルサイン測定の方法〔3〕(演習)
第5回	呼吸・循環を整える技術〔1〕酸素吸入療法・吸引・排たんケア・吸入
第6回	呼吸・循環を整える技術〔2〕(演習)酸素吸入療法・吸引・排たんケア・吸入
第7回	呼吸・循環を整える技術〔3〕(演習)酸素吸入療法・吸引・排たんケア・吸入
第8回	清潔・衣生活への援助技術〔1〕清潔の援助・衣生活の援助
第9回	清潔・衣生活への援助技術〔2〕(演習)全身清拭・寝衣の交換
第10回	清潔・衣生活への援助技術〔3〕(演習)全身清拭・寝衣の交換
第11回	清潔・衣生活への援助技術〔4〕(演習)洗髪・足浴
第12回	清潔・衣生活への援助技術〔5〕(演習)洗髪・足浴
第13回	バイタルサイン測定技術確認試験
第14回	バイタルサイン測定技術確認試験
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・演習は白衣、ナースシューズを着用。
- ・頭髮・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。

〔受講のルール〕

講義までに事前学習課題を学習してくる。

■授業時間外学習にかかわる情報

1. 看護技術の習得は1回の演習ではできないので、繰り返し演習を行い身につける。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(60%)、技術確認試験(30%)、提出物(10%)、に出席状況、学習態度、演習の参加態度等を総合して評価する。

1. 実技試験はチェックリストに基づき目標到達状況により評価する。
2. 提出物は、提出状況、内容の目標到達状況により評価する。

■教科書

1. 有田清子他：基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2012.
2. 藤崎郁・任和子編集：基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2012.
3. 氏家幸子他：基礎看護技術 第7版、医学書院、2011.

■参考書

阿曾洋子・井上智子・氏家幸子：基礎看護技術、医学書院、2012.

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	民主主義、自由主義、人権、医療と法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現代社会では、人は法の保護と規制のもとで生活している。わが国の基本法である憲法、民法、刑法を中心に医療問題を含め、判例等を参考にして、法的な考え方を学び、問題解決能力を身につける。

〔到達目標〕

- ①社会生活をしていく上での基本的法律を理解する。
- ②法的思考、考え方を身につける。
- ③医療従事者としての問題解決能力を身につける。

■授業の概要

法の特徴を学び、憲法の基本原理、統治機構、人権保障の具体的事例を取り上げる。また、生活に直接かかわる民法、刑法の理解を深めるとともに、医療過誤についても触れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション、法の特徴と機能
第2回	日本国憲法の基本原理
第3回	国会の地位と権能
第4回	内閣の地位と権能
第5回	裁判所の地位と権能
第6回	財政、地方自治
第7回	人権保障の原理
第8回	自由権、参政権
第9回	社会権等
第10回	民法(財産権)
第11回	民法(家族法)
第12回	刑法(基本原則、役割)
第13回	刑法(犯罪と刑罰)
第14回	医療と法
第15回	国際社会と法

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・板書、口述の内容はノートに整理しておくこと。
- ・小論文、レポートは必ず提出すること。
- ・欠席が5回を超えると定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習復習は、予習を重点に行うこと。法律問題の新聞・テレビ等に関心を持つこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験、小論文、レポート及び出席状況を総合的に評価する。(目安) 試験結果70%、小論文・レポート・出席状況30%

■教科書

「憲法」 芦部信喜著 高橋和之補訂 岩波書店

■参考書

小六法(小型版) で有斐閣「ポケット六法」か三省堂「模範六法」。担当者配付の「新しい人権の判例」

科目名	医療英語	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教領域における「外国語」			
キーワード	医療場面				

■授業の目的・到達目標

1. 臨床場面での基本表現が身につく。
2. 会話の中で、キーワードを聞き取ることができる。
3. 現場で初歩的な応答ができる。

■授業の概要

音声に重点をおく。
CDの会話を聴き、看護の現場での特殊な用語や表現に慣れる。情報収集のための質問や指示を口頭練習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	Lesson 1: In the Lobby of the Hospital	診療科名
第2回	Lesson 2: Registration	診療申込書の項目
第3回	Lesson 3: Checking the Registration Card	診療申込書記入のために必要な質問
第4回	Lesson 4: Finding the Way	診療科名と院内の道案内
第5回	Lesson 6: Daily Activity	日常生活についての質問
第6回	The Old Time Pain Reliever on p.33	読解のための図やメモの利用
第7回	Lesson 7: More about Daily Activities	症状
第8回	Lesson 8: Asking about Symptoms	痛みの種類と程度
第9回	Lesson 9: More about Symptoms	病名
第10回	Music During Surgery ?	医療分野における音楽の効用
第11回	Lesson 10: Checking Blood Pressure and Weight	測定時の指示
第12回	Lesson 11: Laboratory Specimens	検査名の発音
第13回	検査名のパズル	英文の説明と検査名を結びつける
第14回	Lesson 12: Taking Medicines	薬の服用時の指示と注意事項
第15回	Can Doctors' Pens Carry Disease-Causing Organisms?	英文記事の構造

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の予習として、各課のUseful Expression 中の三つの表現を口頭で言えるようにしておいて下さい。そして毎回、集中して聴き取りに挑戦してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席や遅刻回数を考慮し、定期試験で評価する。

■教科書

How are you feeling? (SEIBIDO)

■参考書

授業時に指示する。

科目名	スポーツ演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高椅 良枝	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「スポーツ科学」			
キーワード	スポーツ演習Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

明るく豊かな生活を送る上で、運動やスポーツの必要性を再確認し、人との関わり方の中で心身ともに健康な身体づくりを図り、健康の保持増進及び体力向上を意識した日常生活を送ることができるようになる。

■授業の概要

運動やスポーツの楽しさと必要性を理解し、楽しみ方やルールの重要性を身につけ、各種の運動やスポーツを体験し、人間交流を深め、積極的に活動できる心体づくりを目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション (授業の進め方・グループづくり)				
第2回	A班	ソフトボール	・	B班	バレーボール
第3回	A班	ソフトボール	・	B班	バレーボール
第4回	A班	ソフトボール	・	B班	バレーボール
第5回	A班	バレーボール	・	B班	ソフトボール
第6回	A班	バレーボール	・	B班	ソフトボール
第7回	A班	バレーボール	・	B班	ソフトボール
第8回	陸上 持久走 (A・B班合同)				
第9回	A班	フットサル	・	B班	バスケットボール
第10回	A班	フットサル	・	B班	バスケットボール
第11回	A班	フットサル	・	B班	バスケットボール
第12回	A班	バスケットボール	・	B班	フットサル
第13回	A班	バスケットボール	・	B班	フットサル
第14回	A班	バスケットボール	・	B班	フットサル
第15回	成果発表大会 (まとめ)				

■受講生に関わる情報および受講のルール

各自の能力・適性や興味・関心をしっかり見定め、ルール、マナーを守り積極的に授業に参加する努力をしてください。学校指定のジャージを着用・装飾品はつけない・長い髪は束ねることを守ってください。天候によって事業計画が変更になることがあります。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業態度 50% ・実技能力 40% ・出席状況 10% (遅刻は3回で欠席1回とカウントする)。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	人体構造機能学Ⅴ	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	人体構造機能学Ⅴ				

■授業の目的・到達目標

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	神経組織の構造と機能に基づく分類	神経組織の構造と機能(神経細胞)
第2回	神経組織の構造と機能(情報の伝達・興奮の伝導・シナプス伝達・反射)	
第3回	中枢神経系の構造と機能(大脳・間脳・脳幹)	
第4回	中枢神経系の構造と機能(小脳・脊髄・中枢神経系を保護する組織、伝導路)	
第5回	末梢神経系の構造と機能(脳神経)	
第6回	末梢神経系の構造と機能(脊髄神経・体性神経系)	
第7回	末梢神経系の構造と機能(自律神経系)	生体のリズム
第8回	神経系の確認テストと解説	
第9回	感覚器の種類と特徴	
第10回	視覚・聴覚の構造と機能	
第11回	平衡覚器の構造と機能	嗅覚と嗅覚受容器の構造と機能
第12回	体性感覚器と内臓感覚器の構造と機能	
第13回	感覚器系の確認テストと解説	
第14回	神経系と感覚器系のまとめ	
第15回	解剖実習	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

林正健二編集:人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
林正健二編集:イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集:カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	疾病・治療論総論	担当教員 (単位認定者)	川手 進・竹吉 泉 三浦 雅文・吉田 大作	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	細胞、組織、生命危機、手術療法、リハビリテーション、放射線治療				

■授業の目的・到達目標

疾病の原因や発生病理、形態機能及び代謝変化の原理を理解し、回復促進のための主な治療を理解することを目的とする。

■授業の概要

疾病の発生機序と人体に及ぼす影響を学び、回復を助けるための治療方法として、リハビリテーション、放射線療法、食事療法、手術療法などについて学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、疾病の成り立ち
第2回	細胞・組織に生じる変化1 代謝障害
第3回	細胞・組織に生じる変化2 循環障害
第4回	細胞・組織に生じる変化3 炎症と免疫、膠原病
第5回	細胞・組織に生じる変化4 腫瘍
第6回	個体の変化に影響する条件1 先天異常
第7回	個体の変化に影響する条件2 老化のメカニズム
第8回	生命の危機的状況 ショック、火傷、熱傷、DIC・MOF、死の徴候
第9回	手術療法1 手術療法とは①
第10回	手術療法2 手術療法とは②
第11回	リハビリテーション1 理学療法の基本
第12回	リハビリテーション2 理学療法の実際
第13回	リハビリテーション3 その他のリハビリテーション
第14回	放射線治療①
第15回	放射線治療②

■受講生に関わる情報および受講のルール

本講義は概論的内容であるため、各疾患に関して学習するときのベースとなる内容であることを十分理解して取り組むこと。オムニバス形式であるため、各授業ごとにノートを整理し、各自が内容を関連付けて学習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(100%)

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	浜田 邦弘・金子 和光 栗原 卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	消化器系疾患、腎泌尿器系疾患、内分泌系疾患				

■授業の目的・到達目標

専門科目を学習するに当たり、そのベースとなる各種疾患・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得することを目標とする。

■授業の概要

消化器系・腎泌尿器系・内分泌系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、消化器系疾患の理解と治療1: 食道・胃の疾患の治療①
第2回	消化器系疾患の理解と治療2: 食道・胃の疾患の治療②
第3回	消化器系疾患の理解と治療3: 肝臓・胆嚢の疾患と治療
第4回	消化器系疾患の理解と治療4: 腸の疾患と治療①
第5回	消化器系疾患の理解と治療5: 腸の疾患と治療②
第6回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 1 腎機能障害のある疾患とその治療①
第7回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 2 腎機能障害のある疾患とその治療②
第8回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 3 人工透析、腎臓の手術
第9回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 4 泌尿器系の疾患と治療① 前立腺の疾患
第10回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 5 泌尿器系の疾患と治療② その他の疾患
第11回	内分泌系疾患と治療1 病態生理の理解と主な治療① パセドウ病・原発性アルドステロン症等
第12回	内分泌系疾患と治療2 病態生理の理解と主な治療② 副腎脂質ホルモン異常など
第13回	内分泌系疾患と治療3 病態生理の理解と主な治療③ 糖尿病
第14回	内分泌系疾患と治療4 病態生理の理解と主な治療④ 脂質代謝異常、痛風等
第15回	内分泌系疾患と治療5 病態生理の理解と主な治療⑤ その他の代謝異常 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎泌尿器
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌: 医学書院

■参考書

授業時に指示する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神戸 将彦・牧野 莊平 根本 俊和	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	循環器系疾患、呼吸器系疾患、血液・造血管疾患				

■授業の目的・到達目標

専門科目を学習するに当たり、そのベースとなる各種疾患・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得することを目標とする。

■授業の概要

循環器系・呼吸器系・血液・造血管系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、循環器系疾患の理解と治療1 心筋梗塞、狭心症
第2回	循環器系疾患の理解と治療2 高血圧、心不全、先天性心疾患
第3回	循環器系疾患の理解と治療3 心筋疾患、心臓弁膜症
第4回	循環器系疾患の理解と治療4 大動脈瘤他、心臓の検査
第5回	循環器系疾患の理解と治療5 主な治療(ペースメーカー、手術療法など)
第6回	呼吸器系疾患の理解と治療1 肺がんの理解と内科的療法
第7回	呼吸器系疾患の理解と治療2 肺がんの理解と外科的療法
第8回	呼吸器系疾患の理解と治療3 肺炎、気管支炎
第9回	呼吸器系疾患の理解と治療4 気管支喘息、結核
第10回	呼吸器系疾患の理解と治療5 主な治療
第11回	血液・造血管系疾患の理解と治療1 血液疾患の特徴と症状
第12回	血液・造血管系疾患の理解と治療2 白血病
第13回	血液・造血管系疾患の理解と治療3 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
第14回	血液・造血管系疾患の理解と治療4 DIC、紫斑病、再生不良性貧血など
第15回	血液・造血管系疾患の理解と治療5 輸血療法他主な治療 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病感染症
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液：医学書院

■参考書

授業時に指示する。

科目名	微生物学	担当教員 (単位認定者)	高木 勝広	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	日和見感染症、院内感染症、滅菌と消毒、薬剤耐性				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

病気の原因となる微生物の基礎的な性質、感染と発症のメカニズム、化学療法、感染予防対策等について、医療従事者として必要な知識を身につける。特に看護師による院内感染の予防対策は重要である。院内感染予防の観点から合理的な対応と適切な対策を行えるよう、その基盤となる知識を習得する。

[到達目標]

- ①微生物とはどのような生物なのか、その種類と性質について理解する
- ②感染とその防御機構について理解する
- ③主な病原微生物の性質と病気等について理解する

■授業の概要

近年、微生物学分野における著しい発展の反面、SARSの流行や新型インフルエンザの出現、さらにはMRSAなど難治性の薬剤耐性菌による院内感染や日和見感染症の急増など、感染症の種類やその様相は著しく変貌している。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物の一般的性質及びこれらに対する宿主の免疫応答機構を学習する。各論では免疫低下に因る日和見感染症、耐性菌による院内感染症、人畜共通感染症、輸入感染症などについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	微生物と微生物学
第2回	細菌学総論① 細菌の形態と特徴
第3回	細菌学総論② 細菌の増殖、遺伝、分類、常在細菌叢
第4回	ウイルス学総論① 形態と構造、分類
第5回	ウイルス学総論② 培養と増殖、遺伝
第6回	真菌学総論 形態と特徴、増殖、分類
第7回	原虫学総論 形態と特徴、増殖、分類 滅菌と消毒
第8回	感染症と発病 感染の機構、感染の成立から発症・治癒
第9回	細菌学各論① グラム陽性球菌からグラム陽性無芽胞桿菌
第10回	細菌学各論② グラム陰性菌
第11回	細菌学各論③ 抗酸菌、放線菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア
第12回	ウイルス学各論① DNAウイルス
第13回	ウイルス学各論② RNAウイルス
第14回	その他の感染(真菌、原虫)
第15回	講義全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

小テスト(20%)、学期末定期試験(80%)等で評価します。

■教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④ ISBN 978-4-260-00673-6

■参考書

東匡伸、小熊恵二編：シンプル微生物学、南江堂 ISBN978-4-524-23978-8

科目名	栄養学	担当教員 (単位認定者)	木村 順子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	栄養学				

■授業の目的・到達目標

栄養学の基本的な知識を身につける。そして実践可能な分野は日常生活に生かすことを目標とする。そのためには、正しい理論と実践を学習する。

■授業の概要

栄養学は生涯を通じて健康を保持・増進し、健康的なライフスタイルを送れるよう、食の科学を追求し、それを実践するための学問である。栄養学概論、栄養学各論、病院食、疾患別食事療法の実際を本演習では、以下のスケジュールに沿って進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス・人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき
第2回	栄養状態の評価・判定、エネルギー代謝
第3回	栄養素の消化吸収、栄養素の体内代謝
第4回	栄養ケア・マネジメント、ライフステージと栄養
第5回	臨床栄養 (A. 病院食、B. 疾患別食事療法の実際①)
第6回	臨床栄養 (B. 疾患別食事療法の実際②、③)
第7回	臨床栄養 (B. 疾患別食事療法の実際④～⑧)
第8回	臨床栄養 (B. 疾患別食事療法の実際⑨～⑪、栄養補給法)、健康づくりと食品・食事・食生活、日本人の食事摂取基準

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・他の教科との関連を理解する。
- ・教科書は、授業内容に合わせ、あらかじめ読んでおき、理解を深めておく。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席状況と定期試験及び課題提出をもとに総合評価する。

■教科書

著者代表 中村丁次 系統看護学講座専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 [3] 医学書院

■参考書

著者代表 中村丁次 系統栄養学講座別巻 栄養食事療法 医学書院

科目名	病理学	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	病因、病態				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

〔到達目標〕
・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
・基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞障害、循環障害、先天異常、炎症・免疫・感染症、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	病理学と解剖学
第3回	病因
第4回	細胞障害
第5回	循環障害
第6回	循環障害
第7回	先天異常
第8回	炎症
第9回	免疫異常・アレルギー
第10回	感染症
第11回	腫瘍
第12回	腫瘍
第13回	腫瘍
第14回	代謝異常
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

・解剖学全般の復習をして、病理学の講義に望んで欲しい。
・机の隣同士2人で相談し、病理学と解剖学の教科書を1冊ずつ用意すること。
・授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りと相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

特に予習の必要はないが、授業で扱った内容について、必ずその週のうちに教科書を読み復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 80%、レポート20%

■教科書

新クイックマスター 病理学(堤 寛 監修、医学芸術社)

■参考書

解剖学の教科書(病理学の講義でも使用する)

科目名	臨床薬理学・薬物論	担当教員 (単位認定者)	新井 篤	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護専門領域における「医学自然科学系」			
キーワード	臨床薬理学・薬物論				

■授業の目的・到達目標

Ptが、受けている薬物療法を安全に行えるよう臨床病態と関連づけながら使われている薬の作用や副作用などを正しく理解することができる。

■授業の概要

薬理作用の基礎として、薬の作用原理・吸収・代謝・排泄などの機序を学び、その後、病態生理をおさえた上で臨床薬を中心にその薬理作用・治療法や使用上の注意点を学び臨床で活用できる知識を身に付けることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	今後の授業内容についてオリエンテーションを行う。および生理学復習。
第2回	薬理学 総論 薬理作用の基礎。薬の作用原理・受容体・吸収分布・代謝・排泄・相互作用・薬物中毒・副作用などを理解する。
第3回	薬理学 各論 末梢神経系と末梢神経作用薬について を学ぶ。
第4回	自律神経系薬物について を学ぶ。
第5回	中枢神経系作用薬について を学ぶ。
第6回	心血管系作用薬について を学ぶ。
第7回	呼吸器・消化器・生殖器系作用薬について を学ぶ。
第8回	抗感染薬について を学ぶ。
第9回	抗癌剤について を学ぶ。
第10回	免疫治療薬について を学ぶ。
第11回	抗アレルギー薬について を学ぶ。
第12回	抗炎症薬について を学ぶ。
第13回	物質代謝作用薬について(糖尿病・甲状腺・骨粗鬆症)について を学ぶ。
第14回	皮膚科・眼科用薬について を学ぶ。
第15回	救急時用いられる薬物・消毒薬について を学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

各自ノートを取る。教科書および参考図書を良く読むこと。教科書 参考書は必ず持参して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている教科書は必ず熟読し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。授業冒頭で学習理解度を知るためミニテストを行うこともある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■筆記試験 (客観・論述) 100%

■教科書

- ① 【教科書】 系統看護学講座 専門基礎5 疾病のなりたちと回復の促進2 医学書院
- ② 新井篤 著 栗原 卓也 監修 コメディカルのための薬理学 (株)アライ 発行
- ③ 治療薬マニュアル 医学書院

■参考書

南山堂 薬理学マニュアル

科目名	看護方法論I	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口 菅沼・小林他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	看護過程の構造・必要な看護を導く思考過程				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】
看護過程を展開する思考の道筋を学び、既習の知識の統合と活用方法を身につけ看護実践力をつけることを目的とする。

【到達目標】

- ①看護過程の構造が理解できる。
- ②看護の目的に照らし人間を統合的に把握し対象に必要な看護を導き出し計画的に実施・評価する思考の道筋を理解できる。
- ③看護を行う上で既習の知識を統合しどのように活用していけばよいか理解できる。

■授業の概要

1. 看護過程を構成する要素とプロセス、看護過程を用いることの意義について事例を基に教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、看護方法論Iで何を学ぶのか
第2回	看護過程の構成要素・意義
第3回	看護過程の基盤となる考え方-問題解決過程・クリティカルシンキング
第4回	情報収集方法と内容・情報分析・看護問題の明確化・計画立案の考え方
第5回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開-常在条件と病理的状態の情報・情報解釈〔1〕
第6回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開-常在条件と病理的状態の情報・情報解釈〔2〕
第7回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開-基本的欲求のアセスメント〔3〕
第8回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開-基本的欲求のアセスメント〔4〕
第9回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開-看護問題の明確化〔5〕
第10回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開-看護問題の明確化と優先順位〔6〕
第11回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開-看護計画の立案〔7〕
第12回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開-看護計画の立案〔8〕
第13回	ヘンダーソン看護論における看護過程展開評価の方法・記録の仕方〔9〕
第14回	看護問題と看護診断-NANDAI看護診断〔1〕
第15回	看護問題と看護診断-NANDAI看護診断〔2〕・まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業への参加度とレポート（50%）・筆記試験（50%）を総合して評価する

■教科書

茂野 香おる他：専門分野I基礎看護技術I・II，医学書院，2011
V・ヘンダーソン：（湯楨ます・小玉香津子訳）：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2011

■参考書

授業時に指示する。

科目名	基礎看護援助技術Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口・ 石川・小林	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	食事・排泄・フィジカルアセスメント				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

看護援助に必要な基礎的知識を学び、安全・安楽を基盤とした日常生活援助技術及びフィジカルアセスメント技術を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 健康および生命維持に欠かせない食事・排泄の意義及び基礎的知識と基本技術を習得する。
2. 排尿困難時の援助方法の一つである導尿技術を習得できる。
3. 看護専門職者に必要なフィジカルアセスメントの基礎的知識を学び技術の方法がわかる。

■授業の概要

人体構造機能学での学びをもとに、フィジカルアセスメント、栄養・食事・排泄の基礎的知識、技術を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 食事の援助技術 摂食・嚥下訓練など
第2回	食事介助・口腔ケア (演習)
第3回	排泄の援助技術〔1〕 自然排尿および自然排便の援助 排便を促す援助など
第4回	排泄の援助技術〔2〕 (演習) 便器・尿器の与え方
第5回	排泄の援助技術〔3〕 (演習) おむつ交換
第6回	排泄の援助技術〔4〕 (演習) 無菌操作・導尿
第7回	排泄の援助技術〔5〕 (演習) 無菌操作・導尿
第8回	フィジカルイグザミネーションの基本技術 問診・視診・聴診・打診・触診
第9回	フィジカルアセスメントの実際〔1〕 (演習) 呼吸器系
第10回	フィジカルアセスメントの実際〔2〕 (演習) 頭頸部・胸部系
第11回	フィジカルアセスメントの実際〔3〕 (演習) 循環器系
第12回	フィジカルアセスメントの実際〔4〕 (演習) 消化器系
第13回	フィジカルアセスメントの実際〔5〕 (演習) 神経系
第14回	導尿技術確認試験
第15回	導尿技術確認試験

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・演習は白衣、ナースシューズを着用。

・頭髪・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。

〔受講のルール〕

講義までに事前学習課題を学習してくる。

■授業時間外学習にかかわる情報

1. 看護技術の習得は1回の演習ではできないので、繰り返し演習を行い身につける。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 (60%)、技術確認試験 (30%)、提出物 (10%) に 出席状況、学習態度、演習の参加態度等総合して評価する。

■教科書

1. 有田清子他、基礎看護技術Ⅰ 医学書院2012.
2. 小野田千枝子、高橋照子他;実践!フィジカル・アセスメント、金原出版、2008.

■参考書

1. 藤崎郁・任和子編集;基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2012.
2. 阿曾洋子・井上智子・氏家幸子;基礎看護技術、医学書院2012.

科目名	基礎看護援助技術Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口・ 石川・小林	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	診療の介助・検査・与薬・死の看取り				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

1. 診療における看護師の役割を学び、診療の介助における基本技術を習得することを目的とする。
2. 終末期にある対象への援助について学び看護者としての役割を考える機会とする。

【到達目標】

1. 診療と看護の意義を理解する。
2. 生体検査・検体検査、ME機器の看護の役割について理解する。
3. 検体検査に必要な基礎的知識を理解し、血液検査における基本技術を習得する。
4. 与薬に必要な基礎的知識を理解し、与薬に対する基本技術を習得する。
5. 死の看取りおよび安らかな死への援助について理解できる。

■授業の概要

医学的な問題を抱える対象に実施される診療・検査・治療における看護師の役割と診療に伴う看護に必要な知識、技術を教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション ・診療と看護 ・検査と看護
第2回	・検体検査・検体の採取方法・生体検査・ME機器・穿刺方法
第3回	・血液検査 真空採血管を用いた静脈血の採血方法（演習）
第4回	・静脈血の採血方法（演習）
第5回	・静脈血の採血方法（演習）
第6回	与薬と看護 与薬における看護師の役割 与薬の種類と方法
第7回	経口与薬、口腔内与薬、直腸内与薬
第8回	注射の方法（1）皮下注射法、皮内注射法、静脈内注射、点滴静脈内注射、輸血
第9回	注射の方法（2）筋肉内注射方法（中殿筋、三角筋）（演習）
第10回	注射の方法（3）筋肉内注射方法（中殿筋、三角筋）（演習）
第11回	注射の方法（4）点滴静脈内注射、自動輸液ポンプを用いた速度設定の調整方法
第12回	救命・救急看護 ・救命・救急とは ・心肺蘇生法
第13回	三角巾を用いた上肢の固定方法（演習）
第14回	死の看取りの技術
第15回	安らかな死への援助

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・演習は白衣、ナースシューズを着用。
- ・頭髪・爪・化粧は「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない。

〔受講のルール〕

講義までに事前学習課題を学習してくる。

■授業時間外学習にかかわる情報

1. 授業の理解に必要な人体構造機能学の知識については自己学習をしておくこと

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（80%）、提出物（20%）、に出席状況、学習態度、演習の参加状況などを総合して評価する。

■教科書

1. 藤崎郁・任和子編集；基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2012.
2. 阿曾洋子・井上智子・氏家幸子；基礎看護技術、医学書院2012、

■参考書

1. 有田清子；基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2012.

科目名	看護論	担当教員 (単位認定者)	中溝・菅沼他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	ナイチンゲール・科学的看護論・ヘンダーソン・ペプロウ・ロイ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

看護援助の根拠となる代表的な看護論の特徴を学び、看護実践への活用ができることを目的としている。

【到達目標】

- ①各看護論の特徴を理解できる。
- ②理論と看護実践の繋がりが理解できる。

■授業の概要

1. 大理論・中範囲理論・実践理論の理論のレベルと関係について教授する。
2. 代表的な看護論の理論的枠組み及び知識体系について教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、看護論とは、主要な看護理論家の看護概念
第2回	ナイチンゲール看護論〔1〕
第3回	ナイチンゲール看護論〔2〕
第4回	ナイチンゲール看護論〔3〕
第5回	ナイチンゲール看護論〔4〕
第6回	ナイチンゲール看護論を継承発展させた「科学的看護論」〔1〕
第7回	ナイチンゲール看護論を継承発展させた「科学的看護論」〔2〕
第8回	ヘンダーソン看護論〔1〕
第9回	ヘンダーソン看護論〔2〕
第10回	ヘンダーソン看護論〔3〕
第11回	ヘンダーソン看護論〔4〕
第12回	ペプロウ看護論〔1〕
第13回	ペプロウ看護論〔2〕
第14回	看護現象を理解する為に用いられる諸理論〔1〕
第15回	看護現象を理解する為に用いられる諸理論〔2〕

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題レポート及び学習の参加度を総合して評価する。

■教科書

1. 藤崎 郁他：看護学概論 基礎看護学①, 医学書院, 2011
2. F. ナイチンゲール (湯楨ます・薄井坦子他訳)：看護覚え書, 現代社, 2011
3. V. ヘンダーソン: (湯楨ます・小玉香津子訳)：看護の基本となるもの, 日本看護協会, 2011.

■参考書

授業中に適宜紹介

科目名	看護基礎実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口・石川・ 小林 他	単位数 (時間数)	1 (45)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	病院機能 患者療養生活の場 看護師の役割				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療看護の行われている場において、患者および患者をとりまく環境の理解を深め看護の実際がわかる。

〔到達目標〕

- 1) 病院機能の概略および病院における医療チームとその役割を理解する。
- 2) 入院患者の療養生活の場がわかる。
- 3) 看護の対象者である、入院患者のおかれている立場を理解する。
- 4) 看護師の役割を理解する。

■実習履修資格者

看護学概論Ⅰ、Ⅱの単位認定の受験資格要件を満たしている

■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習時期 平成26年1月
2. 実習日数 5日間
3. 時間数 45時間

■実習上の注意

1. 具体的内容については、看護学実習の共通要綱及び基礎看護学実習要項に順じ遵守すること。
2. 看護師の役割機能については事前学習を自己学習ノートにまとめておくこと。

■評価方法

1. 出欠席と単位については看護学実習要綱共通編を参照すること。
2. 基礎看護学実習Ⅰの実習評価表に基づき目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。

科目名	精神看護学概論	担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神保健・メンタルヘルス・ライフサイクルと発達課題・看護モデル・対人関係論				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

人間の精神の発達を理解し、精神保健の概念から精神看護師の役割を知り、必要な知識を得る。

[到達目標]

- ①精神保健の必要性和精神看護における倫理的問題から精神看護の役割機能を理解できる。
- ②人間のライフサイクルにおける精神の発達を理解できる。
- ③精神領域で活用する主な看護理論を理解できる。
- ④人間関係におけるコミュニケーションの基本を理解できる。
- ⑤社会の変遷に伴うメンタルヘルスの問題から今後の精神看護の課題を考えることができる。

■授業の概要

人間を対象とする精神看護を実践するためには、精神看護の目的や対象を理解する基礎的知識が必要である。精神看護の意義及び役割機能を社会的変遷から概観し、対象理解に必要な理論的概念と方法を説明する。看護理論は、適応理論(ロイ)、人間関係論(ペプロー)、セルフケア理論(オレム)について概説する。自己理解を通して他者を理解する援助の方法を身につけられるように、身近な対人関係から援助関係を発展できる方法を身につけることをねらいとし、精神的健康の保持増進から精神活動を障害された対象への援助に必要な理論と方法論を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神の健康・現代社会とメンタルヘルス(1)
第2回	精神の健康・現代社会とメンタルヘルス(2)
第3回	ライフサイクルと発達の概念(1)
第4回	ライフサイクルと発達の概念(2)
第5回	ライフサイクルにおける危機と危機理論
第6回	精神保健の定義と精神看護の役割機能
第7回	精神科医療の歴史・法律
第8回	精神看護と看護倫理
第9回	地域精神保健看護
第10回	人間関係論(1)
第11回	人間関係論(2)
第12回	基本的コミュニケーション
第13回	治療的対人関係
第14回	メンタルヘルスの課題(1)
第15回	メンタルヘルスの課題(2)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]

- ・メンタルヘルスにおける社会問題に着目し、あらゆる状況下にある人の「生きる力」を支えるために自ら思考する。
- ・予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出し、自分の考えを述べ思考を発展させる学習姿勢で臨む。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨む。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、予習をしてわからない部分を授業で解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席状況・授業参加態度・筆記試験による総合評価で60%以上を単位認定とする

■教科書

川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011
川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011

■参考書

授業内で適宜紹介する

科目名	精神看護援助論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神疾患と治療 回復と看護 援助方法 家族支援				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

心の健康を保持するための看護援助の基本と活用する技法について学ぶ。

[到達目標]

- ①精神を病む人の特徴を理解する。
- ②精神を病む人とその家族の思いを理解できる。
- ③精神を病む人への看護の思考過程を理解できる。
- ④精神を病む人への様々な治療法と看護師の役割が理解できる。

■授業の概要

心の健康の保持増進及び精神に障害を持ち、危機的状態に陥った対象の援助に必要な理論と方法を学ぶ。また、他者とのかかわりの中で自己理解を深める学習(ロールプレイなど)を通して、患者と看護師関係における自己活用の能力を高められる演習を取り入れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神疾患の回復過程(1)
第2回	精神疾患の回復過程(2)
第3回	精神を病む人と家族への看護援助の基本
第4回	精神科におけるリハビリテーション・精神療法
第5回	集団療法と看護
第6回	作業療法・レクリエーション・生活支援と看護
第7回	認知行動療法と看護
第8回	生活技能訓練(SST)
第9回	看護過程の展開「適応理論」
第10回	看護過程の展開(1)「セルフケアモデル」
第11回	看護過程の展開(2)「セルフケアモデル」
第12回	患者・看護師関係の振り返り-プロセスレコードと看護場面の再構成-
第13回	事例検討(1)-ロールプレイング
第14回	事例検討(2)-ロールプレイング
第15回	司法精神看護

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]

- ・精神に関連する科目、精神看護学概論で得た知識をつなげて学習する。
- ・予習・復習により学習の整理、新たな課題を見出す学習姿勢で臨む。
- ・演習では、体験を通して自分の感じたことや考えたことを積極的に表現する。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨む。
- ・授業の流れや雰囲気乱了り、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、予習をしてわからない部分を授業で解決するよう努力すること。
演習は主体的に参加して学ぶ。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席状況・授業参加態度・筆記試験による総合評価で60%以上を単位認定とする

■教科書

川野雅資編集:精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011
川野雅資編集:精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011
宮本真巳:看護場面の再構成、日本看護協会出版会、2011

■参考書

授業内で適宜紹介する

科目名	成人看護学概論	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	成人 経過別看護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

成人の特徴及び健康問題を理解するとともに、成人の問題への取り組み方の特徴を理解して、看護に役立てる能力を身につける。成人看護を理解し実践するうえで基礎となる概念を経過別の枠組みで理解する。

〔到達目標〕

- ①成人の特徴として、成長発達、発達課題、健康問題、成人を取り巻く環境を理解する。
- ②成人期にある人の健康状態と看護の考え方を、健康の保持増進、急性期、慢性期、回復期、終末期の経過において理解する。

■授業の概要

成人の特徴は、グループワークを通して、文献及び保健衛生の動向からみた成人の理解、健康障害の特徴、成人を取り巻く環境について理解する。

成人の健康問題解決の方法については、看護を理解するうえで基礎となる概念を事例に照らして理解し、看護の方法を検討できる能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション グループワークの説明
第2回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔1〕
第3回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔2〕
第4回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔3〕
第5回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔4〕
第6回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔5〕 発表
第7回	成人期にある人々の理解 グループワーク〔6〕 発表
第8回	成人期にある人々の理解まとめ 成人看護の目的と特性
第9回	成人期にある人々の健康の保持増進のための看護
第10回	事例に基づく健康の保持増進のための看護の理解
第11回	成人期の健康障害との経過の特徴
第12回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（慢性的な経過）
第13回	事例に基づく慢性的な経過をたどる人々の看護の理解
第14回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（急性的な経過）
第15回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護（終末の経過）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。
- ・グループワークはリーダーを決め、計画的かつ主体的に取り組むこと。

〔受講のルール〕

- ・授業計画を確認し、必要なテキストの準備を行って積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業で解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）とし、60%を超えていることとする。

■教科書

- 1) 小松浩子他 系統看護学講座成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院
- 2) 国民衛生の動向
- 3) 黒田裕子 よくわかる中範囲理論 学研

■参考書

- 1) 舟島なをみ 看護のための人間発達学 医学書院
- 2) 松本千明 健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 医歯薬出版株式会社

科目名	高齢者看護学概論	担当教員 (単位認定者)	橋本 知子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	1年後期必修科目	免許等指定科目	看護国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者、加齢、老い、ライフサイクル、エイジズム、高齢者虐待、権利擁護、保健医療福祉				

■授業の目的・到達目標

[目的]

ライフサイクルの最終章にある高齢者の発達課題や高齢者が生きる社会の諸相を多方面からとらえ、高齢者看護に必要な基礎的知識を総合的に学ぶ。

[到達目標]

- ①加齢現象を身体的・精神的・社会的・霊的存在としてとらえることができる。
- ②今日の高齢者社会の諸相について統計的資料から理解できる。
- ③高齢者の自立と権利を保障する諸制度について理解する。
- ④ライフサイクルの最終章を理解する。

■授業の概要

老年期にある高齢者の加齢過程と発達段階・課題を理解する。また、高齢社会における保健・医療・福祉の動向をとらえ、その課題について理解を深める。それらを通して高齢者看護の理念並びに高齢者看護についての洞察ができる基礎知識を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、老いの概念、加齢過程
第2回	高齢社会と社会保障、高齢社会の統計的輪郭、高齢化、高齢化率
第3回	高齢社会の保健医療福祉の動向、ソーシャルサポート、保健医療福祉制度の変遷
第4回	保健医療福祉システム
第5回	介護保険の制度の理念
第6回	高齢者医療制度
第7回	保健医療福祉施設における看護・介護
第8回	高齢者権利擁護
第9回	高齢者虐待
第10回	高齢者看護の理念・定義・歴史
第11回	高齢者看護の実践、ICFモデル、高齢者のための国連原則
第12回	高齢者の健康問題
第13回	ライフサイクルの最終章の看護
第14回	地域資源
第15回	高齢者看護に関する基礎知識の統合

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

知識の整理と確認を小テストによって行うので必ず試験を受けること。専門用語が多くなるので予習・復習をして臨むこと。

[受講のルール]

授業計画内容を必ず確認し積極的に講義に臨むこと。信頼関係の基本である出席時間を厳守すること。挨拶や身だしなみ整えること、私語や携帯電話の使用禁止などは当大学の人間教育の目指すところでもあるので守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業に示されるキーワードは教科書や授業時に配布された資料などで復習をすること。わからないことは授業で解決するように努めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、小テスト10%、課題レポート10%で総合評価する。

総合評価は筆記試験・課題レポートの60%を超えることが大前提である。

■教科書

①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②国民衛生の動向

■参考書

老年看護学関連出版物、随時資料を提示

科目名	福祉住環境論	担当教員 (単位認定者)	岡部 貴代	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	福祉 住環境 バリアフリー				

■授業の目的・到達目標

- ①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。
- ②在宅生活において、生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。
- ③基本的な建築用語を理解でき、設計図面から簡単な情報を読み取ることができる。

■授業の概要

医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身につけ、住環境整備のあり方を理解し、実際に問題解決を提案できる能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・住環境整備の必要性と介護保険制度における住宅改修
第2回	バリアフリーとユニバーサルデザイン、高齢者や障害者のための住宅設計の考え方
第3回	住宅建築の基礎知識
第4回	住環境整備の共通基本技術(1)
第5回	住環境整備の共通基本技術(2)
第6回	生活行為別住環境整備の手法(1)
第7回	生活行為別住環境整備の手法(2)
第8回	生活行為別住環境整備の手法(3)、事例集

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中のノート筆記は必ず行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験で100%の評価をする。

■教科書

福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂版 東京商工会議所編・出版

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	教育と学習の原理	担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育、学習、教育評価、授業、学習意欲、教材作成、カリキュラム、ガイダンス				

■授業の目的・到達目標

[目的]

教育と学習の意義を多面的に問い直し、同時に、自己教育の視点からも役立てる方法を検討する。

[到達目標]

- ①教育、学習、意欲、カリキュラム、教材、ガイダンス等の基本的概念を習得する。
- ②課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。

■授業の概要

教育とは何か、学習とは・・・、教育評価の意義は？等々、日常生活の中で見過ごしている教育の諸問題を検討する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	序章 オリエンテーション	
第2回	第1章 教育と学習の本質	第1節 教育と学習の課題
第3回		第2節 参考書と課題
第4回	第2章 教育と評価	第1節 教育評価の意義
第5回		第2節 教育評価の方法
第6回	第3章 学習と教育	第1節 学習とは何か
第7回		第2節 学習の種類 第3節 学習と教育
第8回	第4章 意欲を高める授業	第1節 意欲と成功
第9回		第2節 成功への期待を高める授業 第3節 失敗体験を活かす授業
第10回		第4節 発達段階に応じた教育、授業方法
第11回	第5章 学習意欲を支援する自作教材作成法	
第12回	第6章 カリキュラム	
第13回	第7章 教育に影響を及ぼした人々	
第14回	第8章 ガイダンス	
第15回	第9章 課題と発表	

■受講生に関わる情報および受講のルール

筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことになる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観、論述) 40%、課題レポート及び発表 40%、授業への参加度 20%

■教科書

島田昌幸著「教育と学習の原理」研文社

■参考書

テキストおよび授業の中で紹介する。

科目名	医療英会話	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「外国語」			
キーワード	医療英会話				

■授業の目的・到達目標

看護現場で患者やスタッフと意思疎通を図れる。
覚えた表現を応用して様々な会話の場面に対応できる。
看護現場で使用頻度の高い語彙を聞き取れ、発音することができる。

■授業の概要

ペアワークを中心にを行い、英語を話す機会を多く設ける。時には、ゲーム、パズル、絵本などを取り入れて、楽しむ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	Chapter 1: Things that Nurses Do	絵を使って看護師のすることを表現する。
第2回	Chapter 1: What is a Nurse?	内容について英問英答
第3回	Chapter 2: Describing Medical Instruments	物を説明する。
第4回	Chapter 3: Asking for Personal Details	診療申込書の質問をする。相手の嗜好や要求をきく。
第5回	Chapter 4: Good Communication with a Patient Is Important	意思疎通の技術に関する聞き取りと読解。
第6回	Chapter 4: Sympathizing with the Patient	共感を伝える表現を練習。
第7回	Chapter 5: Something Special for Me	文化の違いについて考える。
第8回	Chapter 5: Avoiding and Solving Difficulties	絵を見て、問題点を指摘する。
第9回	Chapter 6: That's Important Information	指示を聞き取り、不確かな部分を質問する。
第10回	Chapter 6: The Nurse Seeks Advice from the Doctor	処置の助言を求める。
第11回	Chapter 7: Nurses Work with Related Professionals	他の専門職について知る。
第12回	Chapter 7: Telling a Story	情報を覚え、他の人にそれを伝える。
第13回	Chapter 8: So Busy Tonight	救急治療室での会話を聴きとる。
第14回	Chapter 9: Nurses Work Outside the Hospital	地域社会で働く看護師の仕事内容を把握する。
第15回	Chapter 10: What Type of Nurse Do You Want to Be?	医療現場の事象を英語で説明する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践で役立つ英会話は、何度も繰り返して身体で覚えたものです。普段生活の中で、教科書付属のCDを聴き流し、英語の音に慣れてください。そして授業中は、照れずに大きな声を出して役割練習を繰り返して下さい。お互いに練習台になりながら、英会話力を磨きましょう。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席、授業態度、定期試験により総合的に評価する。

■教科書

English for Nursing Students (NAN'UN-DO)

■参考書

授業時に指示する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	高椅 良枝	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「スポーツ科学」			
キーワード	レクリエーション活動援助法				

■授業の目的・到達目標

レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場におけるレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かな生活を確立することを、支援できるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの広義な意味を理解し、レクリエーション活動に必要な理論と技術を習得し、元気や活力づくりの意欲を高め、幅広い領域で活躍できるように学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション (授業の進め方)
第2回	コミュニケーション・ワーク (アイスブレイキングとは)
第3回	レクリエーションの意義・基本理念
第4回	コミュニケーション・ワーク (ホスピタリティとは)
第5回	高齢者・障害者にとってのレクリエーション
第6回	レクリエーションの援助方法
第7回	脳トレーニングの実際 (演習)
第8回	レクリエーション活動の安全管理
第9回	スポーツ・レクリエーション I (演習)
第10回	素材・アクティビティのアレンジ
第11回	アセスメントの実際
第12回	アセスメントに基づくプログラムづくり (グループ・ワーク)
第13回	プログラム発表
第14回	スポーツ・レクリエーション II (演習)
第15回	まとめ (ふりかえり・評価)

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義は資料プリントに沿って行う。
実技も実施するので、学校指定のジャージの上下と体育館シューズを準備してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

各種大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ参加し、楽しい体験(世代間交流)の中でレクリエーション支援の在り方、手法を幅広く経験してください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 70% 課題 20% 出席状況 10% (遅刻3回で欠席1回とカウントする)

■教科書

資料プリントで対応

■参考書

随時検討

科目名	疾病・治療論各論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	竹内 法明・栗原 卓也 奥泉 宏康	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	運動器系疾患、脳神経系疾患				

■授業の目的・到達目標

専門科目を学習するに当たり、そのベースとなる各種疾患・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得することを目標とする。

■授業の概要

運動器系・脳神経系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、運動器系の疾患の理解と治療1:骨折①上肢の骨折(上腕骨顆上骨折、橈骨骨折、鎖骨骨折など)
第2回	運動器系の疾患の理解と治療2:骨折②下肢の骨折(大腿骨頸部骨折、大たい骨骨折、脛骨・踵骨骨折など)
第3回	運動器系の疾患の理解と治療3:脊椎の疾患①椎間板ヘルニア、側弯症他
第4回	運動器系の疾患の理解と治療4:脊椎の疾患②脊髄損傷、脊髄腫瘍
第5回	運動器系の疾患の理解と治療5:神経麻痺
第6回	運動器系の疾患の理解と治療6:先天性疾患(内反足、先天性股関節脱臼等)
第7回	運動器系の疾患の理解と治療7:骨腫瘍
第8回	運動器系の疾患の理解と治療8:その他の疾患(半月板損傷、アキレス腱断裂など)
第9回	脳神経系の疾患の理解と治療1:脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血(内科的治療)
第10回	脳神経系の疾患の理解と治療2:脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血(外科的治療)
第11回	脳神経系の疾患の理解と治療3:脳腫瘍
第12回	脳神経系の疾患の理解と治療4:パーキンソン病、ALS
第13回	脳神経系の疾患の理解と治療5:脊髄小脳変性症、髄膜炎など
第14回	脳神経系の疾患の理解と治療6:認知症
第15回	脳神経系の疾患の理解と治療7:脱髄性疾患、脳性まひ他

■受講生に関わる情報および受講のルール

人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

系統看護学講座専門分野Ⅱ 脳・神経、系統看護学講座専門分野Ⅱ 運動器:医学書院

■参考書

授業時に指示する。

科目名	疾病・治療論各論Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	高玉 篤・岡宮 智史・栗原 卓也 笹澤 武史・藤本 佳史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論各論Ⅳ				

■授業の目的・到達目標

専門科目を学習するに当たり、そのベースとなる各種疾患・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得することを目標とする。

■授業の概要

感覚器系・精神の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、感覚器系疾患1 眼科の疾患の理解と治療①遠視、近視、老視、白内障
第2回	感覚器系疾患2 眼科の疾患の理解と治療②緑内障、感染性疾患他
第3回	感覚器系疾患3 耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療①喉頭部の疾患
第4回	感覚器系疾患4 耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療②鼻腔の疾患
第5回	感覚器系疾患5 耳鼻咽喉科の疾患の理解と治療③耳の疾患
第6回	感覚器系疾患6 皮膚科の疾患の理解と治療①湿疹、かぶれ、感染性疾患
第7回	感覚器系疾患7 皮膚科の疾患の理解と治療②皮膚がんなど
第8回	口腔歯科疾患
第9回	精神疾患の理解と治療1: 精神疾患の特徴
第10回	精神疾患の理解と治療2: 精神発達遅滞、パーソナリティ障害
第11回	精神疾患の理解と治療3: 不安障害(神経症)、心身症・身体表現性障害
第12回	精神疾患の理解と治療4: 統合失調症
第13回	精神疾患の理解と治療5: 躁うつ病
第14回	精神疾患の理解と治療6: 児童期の精神疾患、老年期の精神疾患
第15回	精神疾患の理解と治療7: アルコール依存症、薬物依存と中毒

■受講生に関わる情報および受講のルール

人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚、
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎、
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開: 医学書院

■参考書

授業時に指示する。

科目名	疾病・治療論各論V	担当教員 (単位認定者)	林 博 多田 真和	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	疾病・治療論各論V				

■授業の目的・到達目標

1. 生殖器系特有な疾患の特徴および治療を理解する。
2. 疾患を抱える子どもへの看護を考えるために、小児期にある子どもに特有な疾患の特徴および治療を理解する。
3. 老年期に特有な疾患の特徴および治療を理解する。

■授業の概要

1. 生殖器系疾患の理解と治療について学ぶ。
2. 小児期にある子どもおよび高齢者に特有な疾患を取り上げ、各疾患の概念、病態生理、分類、疫学、発症、原因、誘因、症状、経過、検査、診断、治療法、予後等について教授する。これらの疾患の治療に伴う看護を考える基礎知識とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス、生殖器系疾患の理解と治療1:子宮筋腫・子宮がん
第2回	生殖器系疾患の理解と治療2: 卵巣のう腫・卵巣がん、不妊
第3回	生殖器系疾患の理解と治療3: 乳がん
第4回	生殖器系疾患の理解と治療4:
第5回	■代謝・内分泌疾患: 新生児マススクリーニング対象疾患、1型糖尿病など ■免疫・アレルギー性疾患: アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、若年性関節リウマチなど
第6回	■感染症: 急性乳幼児下痢症、麻疹、風疹、突発性発疹症、水痘・帯状疱疹、手足口病、流行性耳下腺炎、急性灰白髄炎、日本脳炎、インフルエンザなど
第7回	■呼吸器疾患: 気管支喘息、細気管支炎、マイコプラズマ肺炎、仮性ク룹など ■腎・泌尿器疾患: ネフローゼ症候群など
第8回	■循環器疾患: 先天性心疾患(心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、卵円孔開存症、ファロー四徴症など)、後天性心疾患(川崎病、リウマチ性弁膜症など)
第9回	■消化器疾患: 口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸閉塞、腸重積症、ヒルシュブルグ病、直腸肛門奇形・鎖肛、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症など
第10回	■血液疾患: 血友病、血管性紫斑病、突発性血小板減少性紫斑病など ■腫瘍性疾患: 神経芽腫、ウイルス腫瘍、急性リンパ性白血病、脳腫瘍など ■神経疾患: 髄膜炎、てんかん、水頭症、熱性けいれん、憤怒けいれん、脳性まひ、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎症など ■運動器・骨格器疾患: 先天性股関節脱臼、先天性筋性斜頸、脊柱側弯症、骨折、合指症など
第11回	■皮膚疾患: 色素性母斑、熱傷など ■眼疾患: 結膜炎、全色盲、先天性白内障・緑内障、斜視など ■耳鼻咽喉疾患: 外耳奇形、中耳炎、副鼻腔炎、アデノイド増殖症、口蓋扁桃肥大など
第12回	老年特有の疾患の理解と治療1:
第13回	老年特有の疾患の理解と治療2:
第14回	老年特有の疾患の理解と治療3:
第15回	老年特有の疾患の理解と治療4:

■受講生に関わる情報および受講のルール

人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論、
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論: 医学書院

■参考書

授業時に指示する。

科目名	リハビリテーションの基礎	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文 北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系(保健医療福祉)」			
キーワード	リハビリテーション・理学療法・運動療法・物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーションについて理解し、理学療法および作業療法と多職種、特に看護との関係について理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーションの定義について述べるができる。
- ②理学療法の治療手段について述べるができる。
- ③作業療法について概要を説明できる。

■授業の概要

本講義では、医療分野におけるリハビリテーションについて、理学療法および作業療法の立場から説明する。リハビリテーションは常にチーム医療として実施されるため、看護との関わりや専門職の役割を考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	リハビリテーションの基礎:リハビリテーションとは・ノーマライゼーションとIL運動とQOL(小島)
第2回	理学療法とは何か:理学療法士の法律・理学療法の定義・理学療法の対象(小島)
第3回	理学療法の方法:障害の捉え方(ICIDHとICF)・運動療法とは(小島)
第4回	理学療法の方法:物理療法とは・理学療法士の活動分野(小島)
第5回	作業療法とは何か:作業療法の定義・作業療法の対象(北爪)
第6回	作業療法の方法:障害の捉え方(ICF)・作業療法の段階
第7回	作業療法の方法:障害別作業療法
第8回	作業療法の方法:地域における作業療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

指定しない

■参考書

中村隆一 編:入門リハビリテーション概論第7版.医歯薬出版,2009

科目名	看護方法論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	中溝・菅沼・小林 その他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	看護過程展開能力・典型事例				

■授業の目的・到達目標

【授業目的】

看護方法論Ⅰの学びを基に、複数の典型事例の学習を通して看護過程展開能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①看護に必要な情報に着目し、その情報を解釈・分析をすることができる。
- ②各情報の解釈・分析を基に患者像を描くことができる。
- ③看護問題を明確にして優先順位を考慮することができる。
- ④看護問題に対して、目標を描き看護計画を立案できる。

■授業の概要

1. グループに分かれて、異なった各事例の看護過程展開の一連をワークし、対象に必要な看護を導き出す。
2. グループワーク発表を通して、複数事例の看護過程展開の一連を共有する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション、各典型事例に分かれ対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔1〕
第2回	各典型事例に分かれ対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔2〕
第3回	各典型事例に分かれ対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔3〕
第4回	各典型事例に分かれ対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔4〕
第5回	各典型事例に分かれ対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔5〕
第6回	各典型事例に分かれ対象に必要な看護を導くために看護過程展開の一連のワーク〔6〕
第7回	グループワークの成果発表—学習の共有〔1〕
第8回	グループワークの成果発表—学習の共有〔2〕

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

1. 看護過程展開する為に必要な事前学習をしっかりと臨むこと。特に、受け持ち事例の病態生理はまとめておくこと。
2. 時間内にワークができない場合は、グループで話し合い別に時間を設け学習を進めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

グループワークの参加度・内容、課題レポートを総合して評価する。

■教科書

茂野 香おる他：専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，医学書院，2011。
V・ヘンダーソン：（湯楨ます・小玉香津子訳）：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2011

■参考書

授業中に適宜紹介

科目名	基礎看護援助技術V	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口 石川・小林	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	看護実践能力 複合的技術 安全・安楽なケア				

■授業の目的・到達目標

【目的】

演習事例を通し、看護に必要な既習の知識と技術を統合的・複合的に学習し、看護実践能力を高める。

【到達目標】

- ①対象が抱える健康問題がわかり、焦点化したケアの必要性やその根拠がわかる
- ②対象の看護援助に必要な技術がわかり、必要物品・手順・留意点などがわかる
- ③対象に看護援助の基本や根拠を踏まえ、安全・安楽にケアを行なうことができる
- ④対象の反応を確認しながら看護援助を行なうことができる
- ⑤看護援助の結果を評価することができる

■授業の概要

グループ学習とし、グループダイナミクスを利用して基礎看護援助技術I～IVの既習の知識・技術を活用させ、看護実践能力の強化をはかる授業とする

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 事例の提示
第2回	グループワーク①(事例の熟読・課題に沿ってのまとめ)
第3回	グループワーク②
第4回	グループワーク③
第5回	グループワーク④
第6回	実習室でグループ演習①
第7回	実習室でグループ演習②
第8回	実習室でグループ演習③
第9回	実習室でグループ演習④
第10回	演習のまとめ①
第11回	演習のまとめ②
第12回	演習成果の発表
第13回	演習成果の発表
第14回	演習成果の教員による講評
第15回	レポートまとめ提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

- ・演習は白衣・ナースシューズ着用
- ・頭髪・爪・化粧等については「演習室使用時の心構え」に準じない場合は受講を認めない

〔受講のルール〕

- ・課題達成に向け、個々人が自主的に知識や技術を再学習してくることが重要な要素となる
- ・グループダイナミクスをいかし積極的に発言する

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・各種援助技術は再学習し、修得していること
- ・参考書、資料は何度でも目を通し理解してからグループワークに臨むこと

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ・グループワーク時の参加度や姿勢、発言を30%、演習時の成果発表を30%、記録物提出40%とする

■教科書

特になし

■参考書

- ①藤崎 郁編集；系統看護学講座 専門分野I基礎看護技術I基礎看護学②，医学書院，2011.
- ②藤崎 郁編集；系統看護学講座 専門分野I基礎看護技術II基礎看護学③，医学書院，2011.
- ③阿曾洋子・井上智子・氏家幸子；基礎看護技術第7版，医学書院，2011.
- ④ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます・小玉香津子訳；看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2011.
- ⑤小野田千枝子監修；実践 フィジカルアセスメント 看護者としての基礎技術，金原出版，2008.
- ⑥その他、1年次に配布した資料等を活用する

科目名	精神看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神疾患 精神機能 日常生活 看護過程				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

精神の健康問題に直面している人とその家族のQOLを高める看護とその思考過程を学ぶ。

[到達目標]

- ①精神機能の障害が日常生活に及ぼす影響を理解できる
- ②セルフケアモデルに基づいて対象のアセスメントができる
- ③DSM-Ⅳに基づく精神科看護診断・ケアプランを立案できる

■授業の概要

精神に障害を持つ人とその家族の事例を通して、エビデンスに基づく看護過程を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神機能と障害
第2回	精神障害と生活
第3回	統合失調症の理解 (DVD)
第4回	統合失調症の理解
第5回	気分障害と看護
第6回	依存症と看護
第7回	人格障害・摂食障害と看護
第8回	身体合併症と看護
第9回	看護過程の展開(統合失調症 急性期・慢性期)
第10回	看護過程の展開(統合失調症 急性期・慢性期)
第11回	看護過程の展開(統合失調症 急性期・慢性期)
第12回	看護過程の展開(統合失調症 急性期・慢性期)
第13回	看護過程の展開(統合失調症 急性期・慢性期)
第14回	看護過程の展開(統合失調症 急性期・慢性期)
第15回	事例検討のまとめと発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]

- ・精神に関連する科目、精神看護学概論・援助論Ⅰで得た知識を関連づける。
- ・予習・復習により学習の整理、新たな課題を見出す学習姿勢で臨む。
- ・演習では、主体的に参加学習する。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨む
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、予習をしてわからない部分を授業で解決するよう努力すること。演習は主体的に参加して学ぶ。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席状況・授業参加態度・筆記試験による総合評価で60%以上を単位認定とする

■教科書

川野雅資編集：精神看護学Ⅰ「精神保健看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011。
 川野雅資編集：精神看護学Ⅱ「精神臨床看護学」第5版、ヌーベル・ヒロカワ、2011。
 川野雅資編著：エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図、中央法規、2008。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	母性看護学概論	担当教員 (単位認定者)	石沢 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	ライフサイクル、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族、ウエルネス				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

母性看護の目的や対象の理解を行い、社会のニーズに即した看護の役割機能について考える。

[到達目標]

1. 母性看護の対象について理解することができる。
2. 母性を取り巻く環境や社会制度について理解する。
3. 母性看護の現状と今後の展望を考える。

■授業の概要

「母性とは、現に子どもを産み育てているもののほか、将来子どもを産み育てるべき存在及び過去にその役目を果たしたもの」というWHOの定義の視点から、各ライフステージにおける母性について理解する。また、各期にある母性を取りまく制度・環境についても理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	母性看護の基盤となる概念
第2回	看護職の法的役割
第3回	母性看護における倫理的配慮
第4回	母性看護で用いられる理論
第5回	母子保健統計
第6回	母性看護と法律・施策
第7回	セクシャリティ
第8回	人の発生
第9回	性周期と性ホルモン
第10回	家族計画
第11回	不妊カップルの理解と看護
第12回	障害を持つ子どもの理解と看護
第13回	周産期の死を体験した家族の理解と看護
第14回	ライフサイクルからみた女性の健康課題と看護
第15回	虐待・性暴力を受けた子どもと女性の理解

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講のルール]

授業計画を確認し、事前に教科書は読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

母性看護は女性の一生についての心身の変化、またそれに関わるパートナーの健康、新生児と幅が広く学習量が多い為、国家試験でも点数の獲得が難しい科目です。まとめでの学習は難しいので、授業ごとに予習復習を行い知識が定着するようにして下さい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験、(小テスト×2回、科目終了時) レポートで総合的に評価を行う。

■教科書

横尾京子他: ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学I メディカ出版

■参考書

国民衛生の動向 厚生統計協会 2012/2013

科目名	母性看護援助論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	堀越 摂子 石沢 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児、生理的变化、ウエルネス看護				

■授業の目的・到達目標

[授業目的]

周産期にある女性及び新生児の身体的、心理的变化について理解する。また、それらを取り巻く家族への看護を学ぶ。

[到達目標]

- ①妊娠期、分娩期、産褥期にある女性に起こる生理的な身体の変化や心理的特徴について理解する。
- ②新生児の身体特徴や生理について理解する。
- ③母子関係や愛着の形成について理解する。
- ④妊婦、産婦、褥婦及び新生児を取り巻く家族に必要な看護が理解できる。

■授業の概要

周産期にある女性の身体に起こる生理的变化や心理的变化、新生児の特徴や母子関係について理解し、家族を含めた看護援助について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	受精と胎児の発育に伴う妊婦の身体的変化
第2回	妊娠に伴う心理社会的変化と看護ケア
第3回	妊婦の日常生活と看護ケア
第4回	妊娠中に起こる不快症状と看護ケア
第5回	分娩開始と経過
第6回	産痛と看護ケア
第7回	分娩の進行と胎児のリスク
第8回	妊娠期、分娩期のまとめ
第9回	産褥期の身体的変化と適応
第10回	褥婦への看護ケアの視点
第11回	褥婦のフィジカルアセスメント
第12回	褥婦の心理社会的変化のアセスメント
第13回	新生児の生理学的適応
第14回	新生児のアセスメント
第15回	早期新生児期の看護ケア

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講のルール]

授業計画を確認し、事前に教科書は読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

母性看護援助論は妊娠期、分娩期、産褥期、新生児と生理的に変化していく過程の身体的特徴、また新生児の身体的特徴、母子関係などと幅が広く学習量が多い為、国家試験でも点数の獲得が難しい科目です。まとめた学習は難しいので、授業ごとに予習復習を行い知識が定着するようにして下さい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(科目終了時、中間) レポートで総合的に評価を行う。

■教科書

- ①横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学1 メディカ出版
- ②横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護技術 母性看護学2 メディカ出版

■参考書

- ①佐世正勝、石村由利子：ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院
- ②平澤美恵子監修：写真で分かる母性看護技術 インターメディカ

科目名	母性疾病論	担当教員 (単位認定者)	林 博 石沢 敦子	単位数 (時間数)	15 (8)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	不妊 流産、早産、合併症、帝王切開、産褥熱、血栓症、ハイリスク				

■授業の目的・到達目標

[授業目的]

周産期における異常について理解する。

[到達目標]

- ①妊娠期の経過の異常について理解する。
- ②妊娠に合併する疾患について理解する。
- ③異常出血など症状に特徴のある疾患について理解する。
- ④帝王切開術とその適応について理解する。
- ⑤ハイリスク新生児について理解する。
- ⑥不妊の原因と治療について理解する。

■授業の概要

生理的経過の中で行われる妊娠、出産、産褥、新生児の各期に起こる異常な状態、疾患について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	妊娠期の異常
第2回	妊娠と合併症
第3回	異常出血を伴う疾患
第4回	帝王切開術
第5回	産褥期の異常
第6回	ハイリスク新生児
第7回	不妊の原因と治療
第8回	不妊の原因と治療

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講のルール]

授業計画を確認し、事前に教科書又は配布プリントを読んでから授業に臨むこと。他の受講生の迷惑になる私語や携帯電話の使用は厳禁。

[受講生に関わる情報]

不妊、帝王切開などは社会のニーズに伴い、国家試験の出題も必ず予想されています。疾患として学ぶ事はもとより、倫理や法律なども合わせての学習が必要となります。

■授業時間外学習にかかわる情報

周産期に起きる異常な症状や、原因を理解することで、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の観察や予防が理解しやすくなるので、知識の定着を図るよう復習を行うこと。また、法律、倫理的な考えなど合わせて学習をしてください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(中間、科目終了時)により評価する。

■教科書

- ①横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学1 メディカ出版

■参考書

- ①医療情報科学研究所編集：病が見えるvol.10産科 メディックメディア
- ②正津晃監修：新図説臨床看護 母性看護(含婦人科)

科目名	小児看護学概論	担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児看護 子どもの人権 成長発達 子どもと家族				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小児看護学概論は、小児看護学の学習基盤（導入）として、小児看護を実践する上で必要な基礎的知識や考え方を学び、小児観を育むことを目的とする。

〔到達目標〕

1. 小児看護における対象理解に必要な基礎的知識を学ぶ。
2. 子どもと家族と社会の繋がりを理解し、子どもの成長発達や健康をサポートする看護の役割について学ぶ。

■授業の概要

現代の子どもと家族の概況をとらえ、小児の健康と小児各期の成長発達の特徴及び小児とその家族に対する支援・看護の役割機能について教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 小児看護の特徴と理念 子ども観の変遷
第2回	子どもを取り巻く社会環境（家族を含む）
第3回	小児保健統計と関係法規
第4回	子どもの権利と倫理 1 子どもへの虐待 2 子どもへの告知
第5回	小児各期の成長発達に役立つ基礎的知識：成長発達の原則
第6回	成長発達の理解に役立つ基礎的理論①
第7回	成長発達の理解に役立つ基礎的理論②
第8回	乳児期の成長発達
第9回	幼児期の成長発達
第10回	学童期の成長発達
第11回	思春期の成長発達
第12回	乳幼児の健康問題と社会的背景
第13回	学童・思春期の健康問題と社会的背景
第14回	保健医療チームにおける小児看護活動と他種職との連携
第15回	まとめ 小児看護の目標と役割 小児看護の方向性と課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・小児看護学概論（必修）は、小児看護学学習のための基盤となる科目であり、看護師国家試験出題基準に含まれる。
- ・配布資料及びグループ・自己学習を含む資料等はポートフォリオとして整理し、小児看護学の講義・演習・実習に活用できるようにする。
- ・小テストを実施します。シラバスを確認し、予習復習をして授業に臨むようにしてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・周辺で見かける子どもたちや親子の様子を意識して観察してみてください。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題レポート（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）により、総合的に評価する。

■教科書

奈良間美保他著 系統看護学講座 専門22 小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院
中野綾美他著 小児の発達と看護 MCメディカ出版

■参考書

松尾宣武・濱中喜代編集 小児看護学概論・小児保健 メヂカルフレンド社

科目名	小児看護援助論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	西山 智春 櫻井 美和	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児各期 成長発達 日常生活習慣の自立 フィジカルアセスメント 子どもの安全				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小児各期の成長発達並びに自立に向けた日常生活支援、子どもの安全、フィジカルアセスメント等、小児看護を実践する上で必要な基礎的知識を学び、アセスメントに基づく小児看護の実践ができる能力を養うことを目的とする。

〔到達目標〕

1. 健康な乳幼児・学童・思春期の日常生活習慣の自立過程と援助方法を理解する。
2. 小児各期の健康問題と、それに対する保健指導・健康教育を理解する。
3. 小児のフィジカルアセスメントを理解する。
4. 小児各期の不慮の事故と安全教育について理解する。

■授業の概要

健康な小児の成長発達を促すための援助方法、さらに、正常な成長発達を阻害する要因とその予防についての保健指導を学ぶ。また、フィジカルアセスメント・一次救命処置等のモデルを使用した演習を取り入れて教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 小児期にある子どもの健康な生活への支援： 1) 育児の概念と方法 2) コミュニケーション
第2回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【1】：環境 ・発達段階別の安全環境、入院している子どもの安全環境
第3回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【2】：食事と栄養 ・発達段階別栄養の特徴、離乳食、食事行動の発達過程とその支援
第4回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【3】：排泄 ・排泄行動の発達過程（トイレトレーニング）とその支援
第5回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【4】：清潔と衣生活 ・清潔行動（衣服の着脱・整容を含む）の発達過程とその支援（清拭・部分浴など）
第6回	小児期にある健康な子どもの日常生活習慣の発達過程と支援【5】：睡眠と活動 ・発達段階別の生活リズム、睡眠の意義とメカニズム、発達段階別の遊び
第7回	小児期にある子どもへの保健指導・健康教育 ・発達段階別の保健指導・健康教育の特徴
第8回	子どもの示す主な症状とその看護【1】 ・不機嫌及び啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、嘔吐、下痢、便秘
第9回	子どもの示す主な症状とその看護【2】 ・脱水、浮腫、出血、貧血、けいれん、意識障害
第10回	小児のフィジカルアセスメント【1】
第11回	小児のフィジカルアセスメント【2】
第12回	小児のフィジカルアセスメント【3】〔演習〕 ・バイタルサイン測定、身体計測
第13回	小児各期の不慮の事故と予防および事故時の対処【1】 ・不慮の事故と予防・安全教育・一次救命処置の方法
第14回	小児期の不慮の事故と予防および事故時の対処【2】〔演習〕 ・子どもの心肺蘇生法（AEDを用いた心肺蘇生法も含む）
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・人体構造機能学・小児看護概論の学習と関連させて履修すること。
- ・配布資料及びグループ・自己学習を含む資料等はポートフォリオとして整理し、小児看護学の講義・演習・実習に活用できるようにする。
- ・小テストを実施します。シラバスを確認し、予習復習をして授業に臨むようにしてください。
- ・演習を欠席した場合、再演習を申し出ること。未演習のまま単位を修得することはできない。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・人体構造機能学、小児看護概論の学習と関連させて履修すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ・定期試験（70%）、授業中に実施する小テスト（10%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。

■教科書

1. 奈良間美保他：系統看護学講座 専門22小児看護学（1）「小児看護概論・小児臨床看護総論」第11版，医学書院

■参考書

1. 「写真でわかる小児看護技術」インターメディカ

科目名	成人看護援助論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	慢性期看護 セルフケア セルフマネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

成人の慢性期にある対象を理解し、健康特性に合わせた看護実践能力を身につける。

〔到達目標〕

- ① 疾病を持ち、かつ生活者である成人にとっての疾病コントロールに必要なセルフケアの概要と必要性を理解する。
- ② セルフコントロールのための生活習慣の再獲得に必要な知識や技術の提供を行う方法を理解する。
- ③ 慢性的な経過をたどる成人について看護診断に基づく思考プロセスを理解する。

■授業の概要

成人期のあらゆる健康レベルのなかで慢性期にある対象の看護を学ぶ。

呼吸器系、腎・泌尿器系、循環器系、内分泌系、脳神経系に慢性的な障害を抱えた患者の看護について、アセスメントから看護実践の方法までを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	授業オリエンテーション 慢性期にある患者の理解
第2回	A 呼吸器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.慢性呼吸器疾患(COPD)患者の理解 2.在宅酸素療法
第3回	A 呼吸器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 3.看護診断
第4回	B 腎・泌尿器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.慢性腎炎、腎不全患者の理解 2.水分、食事のコントロール 3.活動と安静の指導
第5回	B 腎・泌尿器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 4.透析患者の看護 5.体重コントロールの指導
第6回	C 循環器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.心不全患者の看護 2.ストレス緩和と生活コントロール
第7回	C 循環器系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 3.看護診断
第8回	D 脳神経系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.ALS患者の理解 2.ALS治療と社会保障、生活の支援
第9回	E 免疫系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.全身性エリテマトーデス患者の理解 2.生活のコントロール
第10回	F 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 1.糖尿病患者の理解
第11回	F 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 2.糖尿病患者のセルフコントロールのための看護
第12回	F 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 3.看護診断
第13回	F 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 4.教育的関わりに必要な方法論 5.セルフコントロールのためのパンフレット作成
第14回	F 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 5.セルフコントロールのためのパンフレット作成
第15回	F 内分泌系に慢性的な障害を抱えた患者の看護 6.パンフレット発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。

・既習の人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論を履修していることが望ましい。

〔受講のルール〕

・本講義の演習は、事前に十分予習し手順書の作成をしてから授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)で60%を超えていること。

■教科書

- 1) 竹村信彦他:系統看護学講座成人看護学[11]アレルギー・膠原病感染症 医学書院
- 2) 飯野京子他:系統看護学講座成人看護学[4]血液・造血器 医学書院
- 3) 金田 智他:系統看護学講座成人看護学[5]消化器 医学書院
- 4) 黒江ゆり子他:系統看護学講座成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院
- 5) 大東貴志他:系統看護学講座成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院
- 6) 浅野浩一郎他:系統看護学講座成人看護学[2]呼吸器 医学書院
- 7) 竹村信彦他:系統看護学講座成人看護学[7]脳・神経 医学書院

■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	成人看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	赤石 三佐代 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	急性期看護、周手術期、クリティカル				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

成人の急性期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。

〔到達目標〕

- ① 手術を受け身体の一部を喪失した患者の看護を実践できる能力を身につける。
- ② 生体侵襲を受ける患者に必要な基本的援助技術を習得する。
- ③ クリティカルな状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。
- ④ 検査に必要な成人援助技術について習得する。

■授業の概要

成人看護に必要な援助技術の理論と実際を学習する。

基礎看護技術論をベースに対象特性、疾病特性を加味した援助技術を学習する。

手術を受ける患者と家族への看護方法、救急時のケアなどについて、対象特性や疾病特性および援助の根拠とともに学習し、演習を通し看護実践能力の向上を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	A. 手術を受ける成人の看護 [1] 1) 周手術期看護 2) 検査看護 3) 術前看護
第3回	A. 手術を受ける成人の看護 [2] 1) 合併症予防 2) 疼痛管理 3) 早期離床
第4回	A. 手術を受ける成人の看護 [3] 1) 胃がん患者の看護
第5回	A. 手術を受ける成人の看護 [4] 1) 術後管理 創傷処置 点滴中の更衣
第6回	A. 手術を受ける成人の看護 [5] 1) 術後管理 2) 創傷処置 3) 点滴中の更衣 <演習>
第7回	A. 手術を受ける成人の看護 [6] 1) 大腸がん患者の看護
第8回	A. 手術を受ける成人の看護 [7] 1) ストマケア、ドレナージ 2) 胃チューブ、留置カテーテルの管理
第9回	B. クリティカルな状態にある患者の看護 [1] 1) 心肺停止状態への対応 2) ショック時の看護 3) 狭心症・心筋梗塞患者の看護
第10回	B. クリティカルな状態にある患者の看護 [2] 1) 心肺蘇生法 <演習>
第11回	B. クリティカルな状態にある患者の看護 [3] 1) 外傷・熱傷患者の看護 2) 心電図
第12回	C. 機能障害のある成人の看護 [1] 1) 喉頭全摘術患者の看護 2) 食道発声法
第13回	C. 機能障害のある成人の看護 [2] 1) 内視鏡手術を受ける患者の看護 2) 腹腔鏡手術
第14回	D. 各種治療を受ける成人の看護 [1] 1) 化学療法 2) 輸血療法
第15回	D. 各種治療を受ける成人の看護 [2] 1) 放射線治療

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。
- ・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上に成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。
- ・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、技術演習、課題レポート等20%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)
総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて60%を超えていることが前提となる。

■教科書

- 1) 臨床外科看護総論、医学書院
- 2) 系統看護学講座、医学書院、呼吸器・消化器・循環器・女性生殖器も使用
- 3) 写真でわかる臨床看護技術2 インターメディカ

■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	成人看護援助論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	看護診断・成果・介入・評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

成人期の対象における看護の実践方法を、エビデンスに基づき導き出す方法を習得する。

〔到達目標〕

- ①看護に必要な情報を系統的に収集できる。
- ②収集した情報を分析解釈して看護問題または共同問題を明確にできる。
- ③看護介入による成果を明確にできる。
- ④看護成果をもたらす介入計画を立案できる。またクリニカルパスの活用方法を理解する。
- ⑤看護成果の評価方法を学ぶ。

■授業の概要

成人の看護過程を教授する。既習の看護理論や中範囲理論を基盤として看護モデルを活用し成人の看護過程を学び、演習を通して理解を深める。更に臨床看護学実習に反映させ習得していく基礎を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 事例紹介(内科的治療を行う事例) 看護過程における看護診断の重要性 (講義)
第2回	看護診断における領域・類の構成 (講義)
第3回	アセスメントガイドの説明 事例を元にアセスメント用紙を用いて情報を整理する方法 (講義)
第4回	事例を元にアセスメント用紙に情報の整理 (演習)
第5回	事例を元にアセスメント用紙に情報の整理 (演習)
第6回	整理した情報の確認 仮診断から看護問題を導き出すための関連図の作成、情報の総合 (講義)
第7回	全体像(関連図)の作成 (演習)
第8回	確定診断 仮診断から確定診断を導き出すためのアセスメント(総合) (講義)
第9回	看護診断の実際[1] リンケージ・NOC・NICの活用方法、看護目標を設定、看護介入 (講義)
第10回	看護診断の実際[2] リンケージ・NOC・NICの活用方法、看護目標の設定 (演習)
第11回	看護診断の実際[3] NICを用いて活動計画の立案 (演習)
第12回	看護診断の実際[4] 看護活動の評価・修正、経過記録 (講義)
第13回	看護診断の実際[5] 看護活動、経過記録を作成 (演習)
第14回	看護診断の実際[6] 事例紹介(手術療法を行う事例)、共同問題、クリニカルパス (講義)
第15回	自己学習課題提示、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

・基礎看護学における看護過程の展開について想起するとともに、既習のヘルスプロモーション、成長発達理論、ストレスコーピング理論、セルフケア理論などをフルに活用して成人看護学で学習すべき内容を統合を図る。よって既習学習の復習を十分に授業に臨むこと。

〔受講のルール〕

- ・本講義は、学生自ら講義で行ったことを復習し、実際に看護過程を展開してみることによって理解を促す科目であるため、必ず課題に取り組み、事前に理解できていない部分を明らかにして、授業に臨み、確認すること。
- ・課題に取り組み達成してこない場合はグループワークなどの授業に参加できないことがあるので十分注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)60%、課題レポート等20%、演習への取り組み20%

総合評価は筆記試験、課題レポート評価、演習への取り組みを合わせて60%を超えていることが前提となる。

■教科書

1) NANDA - NOC - NIC 理解第4版 黒田裕子(著) 2) NANDA-I 看護診断-定義と分類, 3) 看護診断・成果・介入 NANDA, NOC, NIC のリンケージ, 4) 看護成果分類(NOC) -看護ケアを評価するための指標・測定尺度, 5) よくわかる中範囲理論 黒田裕子監修 Gakken 6) 看護診断を読み解く 中木高夫著 Gakken , 7) 看護介入分類(NIC) 南江堂 他

■参考書

基礎から学ぶ看護過程と看護診断、ロザリンド・アルファロール・フィーヴァ著江本愛子監訳 医学書院
これなら使える看護診断 江川隆子編集 医学書院 他講義の中で適宜提示する。

科目名	高齢者看護援助論I	担当教員 (単位認定者)	橋本 知子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者疑似体験、加齢変化、脆弱性、高齢者特有の症状、症状アセスメント				

■授業の目的・到達目標

[目的]

高齢者の生活に与える加齢変化を把握し、高齢者を支援するための基礎知識を修得する。

[到達目標]

- ①加齢変化を疑似体験を通して理解する
- ②加齢現象に伴って生じる高齢者の脆弱性を理解する
- ③高齢者に特徴的な症状をアセスメントすることができる
- ④①～③を通して高齢者の生活に及ぼす影響を理解する。

■授業の概要

人体構造機能学I～IV、疾病・治療論総論等で学修した知識を基に、高齢者看護の援助の実際を理解するための科目です。具体的には、高齢期の加齢現象から日常生活に影響を与えている根拠となる変化や症状をアセスメントできるための基礎知識です。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	疑似体験計画書の作成、グループワーク
第3回	疑似体験実践(個人ワーク)
第4回	疑似体験評価(個人ワーク)
第5回	高齢者の脆弱性
第6回	細胞と組織の加齢変化
第7回	皮膚・感覚器の加齢変化
第8回	循環(血液を含む)・呼吸器系の加齢変化
第9回	泌尿・生殖器系の加齢変化
第10回	消化器・内分泌・代謝系の加齢変化
第11回	泌尿・生殖器系の加齢変化
第12回	高齢者に多い症状①(発熱・痛み・掻痒)
第13回	高齢者に多い症状②(脱水・嘔吐・浮腫)
第14回	高齢者に多い症状③(倦怠感・便秘・下痢)
第15回	加齢変化が日常生活に及ぼす影響

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

知識の整理と確認を小テストによって行うので必ず試験を受けること。専門用語が多くなるので予習・復習をして臨むこと。

[受講のルール]

授業計画内容を必ず確認し積極的に講義に臨むこと。信頼関係の基本である出席時間を厳守すること。挨拶や身だしなみを整えること、私語や携帯電話の使用禁止などは当大学の人間教育の目指すところでもあるので守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業に示されるキーワードは教科書や授業時に配布された資料などで復習をすること。わからないことは授業で解決するように努めること。

■オフィスアワー

授業終了後

■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、小テスト10%、課題レポート10%で総合評価する。総合評価は筆記試験・課題レポートの60%を超えることが大前提である。

■教科書

①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②国民衛生の動向

■参考書

老年看護学関連出版物、随時資料を提示

科目名	在宅看護学概論	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域 在宅看護論			
キーワード	生活の場 継続看護 訪問看護師 在宅療養者 家族・介護者 地域ケアシステム				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

在宅看護の理念、特性、対象、看護職の役割、関係職種との連携、法的背景等を学び、将来の訪問看護師としての志向性を高める。

〔到達目標〕

- ①在宅看護の理念、在宅看護の歴史的背景がわかる。
- ②在宅看護の特徴、看護の継続性、訪問看護師の役割が理解できる。
- ③在宅看護の対象が在宅療養者と家族・介護者であることが理解できる。
- ④在宅看護における関係職種との連携、ケアコーディネーション、地域ケアシステムの構築の意義を理解し、チームケアにおける看護専門職の果たす役割を認識することができる。

■授業の概要

講義を主とするが、時にDVD等の視聴覚媒体も使用する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	・科目オリエンテーション ・在宅看護とは
第2回	・在宅看護の歴史 ・現代社会と在宅看護
第3回	・在宅看護の基本理念 在宅看護の目的、訪問看護師の役割・機能 ・在宅看護の特性 看護の継続性
第4回	・在宅看護の対象〔1〕 1) 地域で生活する人々 2) 在宅療養者
第5回	・在宅看護の対象〔2〕 在宅療養者の家族と介護者
第6回	・在宅看護の機能する場 ・在宅看護に関わる法律・制度
第7回	・地域ケアシステムと関係機関との連携
第8回	・在宅看護管理：訪問看護ステーション運営、安全管理 ・在宅療養者の権利保障、倫理的課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・現在、在宅医療・看護・介護問題がマスコミ等で頻繁に報じられているので、新聞・テレビ等からの情報に常に興味を持って学習に臨んでもらいたい。
- ・自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。
- ・教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ・変更がある場合は前の週の授業が掲示で知らるので、常に注意を払ってください。
- ・遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・既修科目（基礎看護、社会学、社会福祉等）の復習をして、授業に臨んでほしい。
- ・教科書の該当項目の予習とともに、授業終了後の復習を特にしっかりしていただきたい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業態度、出席状況、課題レポート、定期試験により総合的に評価する。

■教科書

杉本正子、真船拓子編：在宅看護論、ヌーヴェルヒロカワ

■参考書

随時、紹介する。

科目名	ヘルスカウンセリングの原理と方法	担当教員 (単位認定者)	清水 敦彦 豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会系」			
キーワード	健康 カウンセリング 自己効力感				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
一人一人のニーズに応じた支援を行うために、ヘルスカウンセリングの基本的知識と技法を学ぶ。
〔到達目標〕
ヘルスカウンセリングの基礎的知識と技法を理解し、学校でできる支援の意義について理解を深める。

■授業の概要

カウンセリングについて、もっとも基本的なことを検討し、ヘルスカウンセリングの基本技法と展開について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ヘルスカウンセリングの意義
第3回	カウンセリングの方法
第4回	自己決定を効果的に促すヘルスカウンセリング法
第5回	ヘルスカウンセリングの基本技法と展開
第6回	ケースに学ぶヘルスカウンセリング
第7回	発達障害・精神疾患を理解する
第8回	様々な不適応を示す子どもたちへの対応

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。
また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
〔受講のルール〕
・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。(評価には使わない)

■授業時間外学習にかかわる情報

・健康に関する情報(新聞記事など)を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。
・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

看護に役立つヘルスカウンセリング、宗像恒次、メジカルフレンド社、1999
系統看護学講座 基礎6 心理学、辰野千寿、医学書院、1992

■参考書

授業時に指示する。

科目名	経済学	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	マクロ経済学、経済統計				

■授業の目的・到達目標

経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解し、毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを到達目標とする。

■授業の概要

経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	イントロダクション
第2回	DI
第3回	GDP
第4回	経済成長
第5回	金融
第6回	国際経済学Ⅰ
第7回	国際経済学Ⅱ
第8回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP等を参照して復習すると、理解がより深まる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	教育心理学	担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育評価、学習意欲、教材、発達段階、学習方法、問題解決学習、言語情報学習				

■授業の目的・到達目標

[目的]

近い将来指導的な役割を担う者にとって重要な教育心理学的な概念の学習を通して、課題解決の方法を学ぶ。

[到達目標]

- ①評価、学習、意欲、教材等の基本的概念を習得する。
- ②課題解決への実践と成果を小論文等にまとめ、発表する。

■授業の概要

教育評価、学習意欲、発達段階等々の重要なテーマについて教育心理学的な観方、解決方法を紹介する。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	序章 授業案内 第1章 教育心理学への招待	課題1 読書感想
第2回	第2章 学習意欲を高める評価	課題2 小論文
第3回	第3章 学習意欲を高める教材	課題3 教材作成
第4回	第4章 発達段階と教育(1)(乳幼児期の特徴と教育)	課題4 小実験
第5回	第5章 発達段階と教育(2)(学童期、青年期の特徴と教育)	課題5 小論文
第6回	第6章 効果的学習法(1)(運動技能学習と言語情報学習)	
第7回	第7章 効果的学習法(2)(問題解決学習)	課題6 小論文
第8回	課題研究発表と総括	

■受講生に関わる情報および受講のルール

筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行う必要がある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観、論述)40%、課題レポート及び発表40%、授業への参加度20%

■教科書

島田昌幸著「教育心理学」研文社

■参考書

テキストおよび授業の中で紹介する。

科目名	教育方法論	担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育方法、ガイダンス、授業、システム化、教材開発、学習意欲				

■授業の目的・到達目標

[目的]

教育方法の事例の検討、授業のシステム化、芸術的構成、情報機器の活用等、多様な教育方法の学習をもとにして、独自の自作教材を開発する。

[到達目標]

- ①教育方法、ガイダンス、授業、システム化、教材開発等の基本的概念を習得する。
- ②課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。

■授業の概要

教育方法の事例(カウンセリング、ユニークな授業、情報化)の検討をもとにして、授業に役立てる自作教材開発の方法を紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	序章 授業案内 第1章 教育方法の意義と内容(1)(カウンセリング、プログラム学習)
第2回	第1章 教育方法の意義と内容(2)(仮説実験授業、シュタイナー教育)
第3回	第1章 教育方法の意義と内容(3)(情報化、CAI、参考書と課題)
第4回	第2章 教材開発の意義と方法(1)(教材開発の意義、三種類の自作テキスト教材)
第5回	第2章 教材開発の意義と方法(2)(自作テキスト教材の特徴、作成法と活用法)
第6回	第3章 情報機器の活用の方法(1)(自作プレゼンテーション教材)
第7回	第3章 情報機器の活用の方法(2)(自作CAI教材等)
第8回	第3章 情報機器の活用の方法(3)(作品例紹介と作成演習)
第9回	第4章 学習意欲を支援するガイダンス(1)(意欲の構造、魅力的目標)
第10回	第4章 学習意欲を支援するガイダンス(2)(達成期待、満足感期待)
第11回	第4章 学習意欲を支援するガイダンス(3)(人物伝)
第12回	第5章 授業の構成法(1)(授業のシステム化と芸術的構成)
第13回	第5章 授業の構成法(2)(目標イメージ検討法、授業改善の方法)
第14回	第6章 課題研究成果の発表
第15回	第7章 総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことになる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観、論述)40%、課題レポート及び発表40%、授業への参加度20%

■教科書

島田昌幸著「教育方法論」研文社

■参考書

テキストおよび授業の中で紹介する。

科目名	健康教育論	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における教育学系			
キーワード	健康教育 ヘルスプロモーション 行動変容				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

健康教育やヘルスプロモーションの考え方、行動変容を促す健康教育の理論と方法を理解する。

〔到達目標〕

健康教育のテーマを決めて学習指導案を作成し模擬授業を実践することにより、健康教育を実際の養護実習の場において活用する準備ができる。

■授業の概要

ヘルスプロモーションにおける健康教育の理念を学び、主体的に行動変容を促す健康教育の手法を用いた、計画段階から評価までのプロセスを具体的な事例で確認する。その後、行動変容を促す健康教育の手法を用いた健康教育の学習指導案を作成し、模擬授業後の発表を行い、評価につなげる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・健康教育の概要
第2回	健康教育プログラムの計画と評価
第3回	健康教育・ヘルスプロモーションの展開と方法
第4回	健康教育の実施1(演習)
第5回	健康教育の実施2(演習)
第6回	健康教育の実施3(演習)
第7回	健康教育の実施4(演習)
第8回	健康教育の発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・学習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。

・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

〔受講のルール〕

・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートを取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など)を活用すること。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。(評価には使わない)

■授業時間外学習にかかわる情報

・健康に関する情報(新聞記事など)を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。

・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)

総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

日本健康教育士養成機構編:新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道、保健同人社、2011

これからの小学校保健学習:日本学校保健会、2012

これからの中学校保健学習:日本学校保健会、2011

喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料 中学校編:日本学校保健会、2011

■参考書

学校保健・安全実務研究会:新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011

後閑容子 他著:健康科学概論(第3版)、廣川書店、2012

学校と家庭で育む子どもの生活習慣:日本学校保健会、2011

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	健康 予防 人口動態 セルフケア ヘルスプロモーション 環境				

■授業の目的・到達目標

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれることがわかる。

■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業時に指示する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

本試験100%

■教科書

みるみる公衆衛生学最新版 医学評論社

■参考書

授業時に指示する。

科目名	看護基礎実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口・ 石川・小林 他	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	2年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	情報収集 情報アセスメント 問題の明確化 看護計画 看護実践 評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

基礎看護学の既習の知識・技術を活かして、対象の健康上のニーズを把握し看護実践を通して看護過程展開の基礎を学ぶ。

〔到達目標〕

- 1) v・ヘンダーソンの看護論を用いて、対象の健康上のニーズを把握し、対象に合わせた日常生活援助を考え実践・評価ができる。
 - (1) 看護をするために必要な情報を収集し、その情報の解釈ができる。
 - (2) 患者の基本的欲求の充足状況をアセスメントできる。
 - (3) 対象の健康上のニーズを把握し、優先度を考えながら看護問題を明確にできる、
 - (4) 個別性を踏まえた看護計画が立案できる。
 - (5) 対象の反応を見ながら安全・安楽を考慮し、科学的根拠を考えて実施ができる。
 - (6) 実施した結果をもとに、看護計画の評価・修正ができる。

■実習履修資格者

看護基礎実習Ⅰの単位を履修していること
 看護学概論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること
 看護学方法論Ⅰの単位を修得していること
 看護学方法論Ⅱの受験資格を満たしていること
 基礎看護援助技術Ⅰ～Ⅳの単位を修得していること
 基礎看護援助技術Ⅴの単位認定の受験資格要件を満たしていること

■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習時期 ①平成25年9月2日～13日 ②平成25年9月16日～27日
2. 実習日数 10日間
3. 時間 90時間

■実習上の注意

1. 具体的内容については、看護学実習の共通要綱及び基礎看護学実習要項に順じ遵守すること。
2. 事前学習を自己学習ノートにまとめておくこと。

■評価方法

1. 出欠席と単位については看護学実習要綱共通編を参照すること。
2. 基礎看護学実習Ⅱの実習評価表に基づき目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。

科目名	母性看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	堀越 摂子 石沢 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	妊婦健康診査、沐浴、清拭、産褥体操、フィジカルアセスメント、看護過程、ウエルネス				

■授業の目的・到達目標

[授業目的]

妊婦・産婦・褥婦および新生児に必要なケアを看護過程を用いて理解し、記述できる。
母性看護に必要な基本的技術の原理と根拠を明確にし、実施することができる。

[到達目標]

- ①母性看護における看護過程の特徴について理解できる。
- ②妊娠期、分娩期、産褥期、新生児、母子関係、家族などの情報を整理しアセスメントの方法を理解出来る。
- ③妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な援助技術について理解できる。

■授業の概要

母性看護援助論Ⅰを踏まえて、母性看護に必要な観察・援助技術を学ぶ。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児各々の特性を踏まえ、効果的に看護を展開するための方法(看護過程)を学び実践へつなげる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。演習の為、詳細な計画は第1回の授業で説明します。

第1回	母性看護における看護過程
第2回	記録用紙と記入の方法
第3回	妊娠期の情報収集とアセスメント
第4回	妊娠期の情報収集とアセスメント
第5回	分娩期の観察と看護援助
第6回	産褥期の情報収集とアセスメント
第7回	産褥期の情報収集とアセスメント
第8回	新生児の観察とアセスメント
第9回	新生児の観察とアセスメント
第10回	沐浴指導、産褥体操の方法
第11回	沐浴指導、産褥体操の方法
第12回	新生児のフィジカルアセスメントに必要な技術
第13回	新生児の清潔方法(沐浴、清拭)
第14回	妊婦健康診査に必要な看護技術
第15回	産褥期のフィジカルアセスメントに必要な技術

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報とルール]

- ①技術演習の時はユニホームの着用、髪を束ねる、爪を切るなどの準備を行う。準備が出来ていないものは受講できない。
- ②12回からA,Bクラスを分け、他の授業科目(小児)と組んで演習を行うため、計画表を見て忘れ物をしないように注意する。
- ③レポートの提出は期限を守る事。期限に提出出来ない場合は減点の対象になる。また、必要な項目が記入されていない場合は再提出が求められる。提出が無い場合は演習の授業は受講できない。

■授業時間外学習にかかわる情報

援助論Ⅱは、実習に出る為に大切な授業となる。講義形式の授業ではないので、自ら進んで学習に取り組む事が必要になる為、疑問は教員に質問を行い学習を進める。レポート提出が多くあるため、空き時間を上手に活用し、期限を守って提出を行うこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

看護過程、保健指導案(沐浴・産褥体操)、妊婦健康診査に必要な援助技術、新生児の清潔方法、産褥期のフィジカルアセスメントに必要な技術は演習の前にレポート提出を行う。基準に満たない場合は再提出となる。レポート評価60点、筆記試験40点で総合的に評価を行う。

■教科書

- ①横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護実践の基本 母性看護学1 メディカ出版
- ②横尾京子他：ナーシンググラフィカ母性看護技術 母性看護学2 メディカ出版

■参考書

- ①佐世正勝、石村由利子：ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 医学書院
- ②平澤美恵子監修：写真で分かる母性看護技術 インターメディカ

科目名	小児看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	櫻井 美和	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児看護、病気を抱える子ども、日常生活支援、発達支援、家族支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）に応じた看護を実践する上で必要な基本的知識・技術を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①小児期に生じやすい健康障害の経過、症状、治療を理解し、健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を全人的に理解する
- ②健康障害を抱える子どもと家族の特徴的な看護問題とその看護を理解する
- ③子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で基本となる小児看護技術を習得する。

■授業の概要

健康障害を抱える子どもの健康の回復・維持・増進、健全な成長・発達を目指すことが小児看護の役割である。そのため、子どもの発達段階、健康状態、個別性に応じた看護を展開する上で必要な基本的知識・技術を習得することが必要である。本科目では、様々な発達段階、健康状態にある子どもと家族の事例を提示することによって授業を展開するとともに、視聴覚教材・看護教育用シュミレータを活用することによってイメージ化をはかることを通じ、健康障害を抱える子どもと家族に特徴的な看護問題と看護援助方法について教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [1]: 病気、障害および入院による子どもと家族への影響と看護/入院している子どもの権利
第2回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [2]: 健康障害を抱える子どもへの日常生活支援
第3回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [3]: 健康障害を抱える子どもへの日常生活支援
第4回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [4]: 急性期にある子どもと家族への看護 (川崎病)
第5回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [5]: 長期療養を必要とする子どもと家族への看護 (ネフローゼ症候群) ①
第6回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [6]: 長期療養を必要とする子どもと家族への看護 (ネフローゼ症候群) ②
第7回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [7]: 予後不良の疾患を抱える子どもと家族への看護 (小児がん)
第8回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [8]: ハイリスク新生児と家族への看護 (低出生体重児)
第9回	小児期にある子どもの健康障害と看護の方法 [9]: 障害を抱える子どもと家族への看護 (重症心身障害児)
第10回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護 [1]: 採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺
第11回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護 [2]: 与薬、輸液療法、酸素療法
第12回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護 [3]: 手術を受ける子どもと家族への看護 ①
第13回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護 [4]: 手術を受ける子どもと家族への看護 ②
第14回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護 [5]: 【演習】 与薬時の看護、輸液療法時の看護
第15回	治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護 [6]: 【演習】 与薬時の看護、輸液療法時の看護

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・必修科目「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」「看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ」「疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ」「臨床薬理薬物論」等の知識が必要となる。これらの科目で学習した知識・技術を十分復習するとともに、予習を必ず行うこと。

・演習時には白衣を着用し、身だしなみを整え授業に臨むこと。

〔受講のルール〕

・小児看護学実習に繋がる重要な科目であるため、授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等）を活用すること。

・ポートフォリオを持参し、内容を補充しながら授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気を感じたり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むとともに、わからない部分を授業にて解決するよう努めること。

・授業の進行過程において、各自ポートフォリオを作成すること。

・授業中に提示された課題には必ず取り組むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）70%、授業中に実施する小テスト10%、技術演習および課題レポート20%により総合的に評価する。

■教科書

①奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院。

②奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論，医学書院

③中野綾美編：ナーシング・グラフィカ28 小児看護学-小児の発達と看護，メディカ出版。

④中野綾美編：ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術，メディカ出版。

■参考書

・山元恵子監修：写真でわかる小児看護技術，インターメディカ。・筒井真優美監修：小児看護学実習ガイド，照林社。

科目名	小児看護援助論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	西山 智春 櫻井 美和	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児看護、ヘンダーソンの看護論、看護過程、常在条件、病理的状态				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）、個別性に応じた看護過程を展開する方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①健康障害を抱える子どもの特徴をふまえ、看護過程の意義、ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の基本的考え方を理解する。
- ②健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性をアセスメントする。
- ③健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題の解決および回避に向けた個別的な看護計画を立案する。

■授業の概要

健康障害を抱える子どもの健康の回復・維持・増進、健全な成長・発達を目指すことが小児看護の役割である。そのためには、子どもの発達段階、健康状態、個別性に応じた看護を展開することが必要不可欠である。本科目では、様々な発達段階にある、疾患を抱える子どもと家族のモデル事例への看護過程の展開を試行することを通じ、子どもの特徴をふまえたヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の実際（基本的欲求、基本的欲求に影響を与える常在条件と病理的状态、アセスメント、関連図の作成、看護問題と目標設定、具体策の立案、実施・評価）を教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/健康障害を抱える子どもの看護過程とヘンダーソンの看護論 [1]: 意義、基本的欲求
第2回	健康障害を抱える子どもの看護過程とヘンダーソンの看護論 [2]: 子どもの特徴をふまえた常在条件と病理的状态
第3回	モデル事例に基づく看護過程演習 [1]: 情報の整理・アセスメント
第4回	モデル事例に基づく看護過程演習 [2]: 情報の整理・アセスメント
第5回	モデル事例に基づく看護過程演習 [3]: 関連図の作成
第6回	モデル事例に基づく看護過程演習 [4]: 看護問題・共同問題の抽出と優先順位の決定
第7回	モデル事例に基づく看護過程演習 [5]: 目標設定、看護計画の立案
第8回	モデル事例に基づく看護過程演習 [6]: 実施・評価/健康障害を抱える子どもの看護過程の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・必修科目「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「看護基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ」「疾病・治療論各論Ⅰ～Ⅴ」「臨床薬理薬物論」等の知識が必要となる。これらの科目で学習した知識・技術を十分復習するとともに、予習を必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・小児看護学実習に繋がる重要な科目であるため、授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等）を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・授業中に提示された看護過程の課題の提出期限は厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むこと。
- ・授業中に提示された看護過程の課題には必ず取り組むこと。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題レポート（モデル事例の看護過程展開の演習記録用紙の提出）90%、授業態度・出席状況10%により総合的に評価する。

■教科書

① 焼山和憲著：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程-看護計画立案モデル 第4版，日総研出版，2007

■参考書

- ・石黒彩子，浅野みどり編：発達段階からみた小児看護過程+病態関連図，医学書院，2008
- ・荃津智子編：発達段階を考えたアセスメントに基づく看護過程，医歯薬出版，2012

科目名	成人看護援助論Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	QOL セルフケア ADL 自立				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

成人の回復期にある対象の看護実践方法を習得する。

〔到達目標〕

- ①成人期のあらゆる健康レベルの対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を学習する。
- ②対象の症状や状態、経過や治療にあわせた看護実践理論を学習する。
- ③意識障害や生命危機状態にある患者の看護を実践できる能力を身に付ける。
- ④生活の再調整・再構築のために必要な基本的援助技術を習得する。

■授業の概要

成人期にある対象の回復期および生活行動の障害に焦点を当て、QOL、ADLの自立、セルフケアに焦点を当て、呼吸器疾患、脳血管疾患、運動器疾患の看護を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション A 回復期にある対象の看護〔1〕呼吸器の障害
第2回	A 回復期にある対象の看護〔2〕呼吸器の障害
第3回	A 回復期にある対象の看護〔3〕呼吸器のリハビリテーションを中心に
第4回	A 回復期にある対象の看護〔4〕循環器の障害
第5回	A 回復期にある対象の看護〔5〕循環器の障害のリハビリテーションを中心に
第6回	A 回復期にある対象の看護〔6〕呼吸音の聴取、心電図、血糖測定（演習）
第7回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔1〕脳血管障害のある対象を中心に
第8回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔2〕脳血管障害のある対象を中心に
第9回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔3〕脳血管障害のある対象を中心に
第10回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔4〕生活行動のアセスメント
第11回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔5〕運動器に障害：骨折時の看護-1
第12回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔6〕運動器に障害：骨折時の看護-2
第13回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔7〕運動器に障害：神経麻痺・脊髄損傷-1
第14回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔8〕運動器に障害：脊髄損傷-2 切断
第15回	B 生活行動に障害のある成人の看護〔9〕まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。
- ・既習の人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論を履修していることが望ましい。

〔受講のルール〕

- ・本講義の演習は、事前に十分予習し手順書の作成をしてから授業に臨むこと。
- ・演習はユニフォーム着用

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）で60%を超えていること。

■教科書

- ・浅野浩一郎他：系統看護学講座；成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院
- ・阿部光樹他：系統看護学講座；成人看護学〔3〕循環器 医学書院
- ・竹村信彦他：系統看護学講座；成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院
- ・織田弘美他：系統看護学講座成人看護学〔10〕運動器 医学書院

■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	成人看護援助論Ⅴ	担当教員 (単位認定者)	赤石 三佐代 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	終末期、ターミナル、がん看護、緩和ケア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

成人の終末期にある対象を理解し、健康特性にあわせた看護実践能力を身につける。

〔到達目標〕

- ①終末期の状態にある患者に必要な基本的援助技術を習得する。
- ②がん患者に対する緩和ケアの理論や方法論を学び、実践能力を身につける。
- ③ターミナル期の患者に必要な成人援助技術について習得する。
- ④終末期の患者とその家族を取り巻く環境の在り方を考える能力を身につける。

■授業の概要

成人期のあらゆる健康レベルのなかで終末期における対象の看護を学ぶ。

がん患者のアセスメントから看護を展開するための理論や方法論を学習する。肺がん、白血病、エイズ、前立腺がん等の疾患を踏まえた看護実践能力を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔1〕 1) 呼吸困難 2) 意識障害 等
第2回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔2〕 1) 検査 2) 吸入 3) 酸素療法 4) 観察とアセスメント
第3回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔3〕 1) 肺がん患者の看護
第4回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔4〕 1) 観察とアセスメント 2) フィジカルアセスメント 3) 呼吸音の聴取
第5回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔5〕 1) 看護診断 2) 看護計画 3) 具体策
第6回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔6〕 1) 白血病患者の看護 2) 無菌質の看護
第7回	A. 治癒困難な終末期の患者の看護〔7〕 1) AIDS患者の看護
第8回	B. 心肺停止状態にある患者の看護〔1〕 1) 心肺停止状態のアセスメント 2) 心肺停止状態への対応
第9回	B. 心肺停止状態にある患者の看護〔2〕 1) 狭心症・心筋梗塞患者の終末期の看護
第10回	C. 機能障害のある成人の看護〔1〕 1) 生殖器障害：前立腺がん患者の看護
第11回	C. 機能障害のある成人の看護〔2〕 1) 生殖器障害：子宮がん患者の看護
第12回	C. 機能障害のある成人の看護〔3〕 1) リンパマッサージ 2) 安寧を得る援助
第13回	D. 死に直面した患者家族の看護〔1〕 1) 悲嘆の看護（グリーフケア） 2) 緩和ケア 3) ペインコントロール
第14回	D. 死に直面した患者家族の看護〔2〕 1) 臨終時の看護 2) エンゼルケア 3) 創傷処置
第15回	D. 死に直面した患者家族の看護〔3〕 1) 安楽死、セデーションを考える

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・この科目は臨床看護学実習の履修要件となっている。

・人体構造機能学、疾病治療論、成人看護学概論の学習の上で成り立つ科目であるためこれらの科目を習得していることが望ましい。

・演習時には新たにオリエンテーションをするので確認して臨むこと。

〔受講のルール〕

・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）80%、技術演習、課題レポート等20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

総合評価は筆記試験、技術演習等合わせて60%を超えていることが前提となる。

■教科書

- 1) ターミナルケア、医学書院
- 2) 系統看護学講座、医学書院、呼吸器・消化器・循環器・女性生殖器も使用

■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	高齢者看護援助論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	丸井 明美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	高齢者看護、高齢者の疾患・症状、高齢者アセスメント、加齢変化、QOL				

■授業の目的・到達目標

- ①高齢者に特徴的な疾患・症状についてアセスメントできる
- ②加齢による変化が日常に及ぼす影響を知り、高齢者の生活を整える援助が理解できる
- ③疾病や病態の特性を理解し、高齢者に対する看護援助方法が理解できる

■授業の概要

高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰの知識をもとに、高齢者看護の援助について学習する。具体的には、老年期の生理的加齢現象が高齢者に及ぼす影響を考え、日常生活を整える看護について学びを深める。さらに、健康障がいや併せ持つ高齢者の疾患・症状の特徴を理解し、高齢者のQOLを高めるべく、健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を総合的に展開できる看護援助方法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/日常生活を支える基本動作と看護ケア
第2回	転倒のアセスメントと看護ケア/廃用症候群のアセスメントと看護ケア
第3回	高齢者の排泄ケアと清潔ケア(尿失禁・便秘)(ドライスキン)
第4回	高齢者の食事と看護ケア(低栄養(PEM)・摂食・嚥下機能の変調・口腔ケア)
第5回	高齢者の口腔ケアの実際
第6回	高齢者の生活リズムと看護ケア(睡眠と覚醒、休息と活動)/高齢者に特徴的なコミュニケーション障がいと看護ケア
第7回	検査・治療、手術療法を受ける高齢者の看護
第8回	脳・神経系に障がいがある高齢者の看護(脳卒中、パーキンソン病、パーキンソン症候群)
第9回	循環器・呼吸器に障がいがある高齢者の看護(虚血性心疾患、心不全、閉塞性肺疾患)
第10回	感染症状がある高齢者の看護(インフルエンザ、誤嚥性肺炎、感染性胃腸炎)
第11回	運動機能に障がいがある高齢者の看護(骨粗鬆症、骨折、褥瘡)
第12回	認知機能に障がいがある高齢者の看護(認知症)
第13回	うつ、せん妄のある高齢者の看護ケア 高齢者のリスクマネジメント(医療安全・災害看護)
第14回	終末期にある高齢者と家族の看護
第15回	高齢者に特徴的な疾患・症状についてのアセスメントと高齢者に対する看護援助方法のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講に関わる情報〕

高齢者に特徴的な疾患・症状についてのアセスメントと看護を学ぶため、高齢者看護学概論および高齢者看護援助論Ⅰ、疾患の病態生理・治療と基礎看護学での生活援助の知識や演習内容の復習が必要である。

〔受講のルール〕

シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。わからないことはそのままにせず積極的に質問すること。将来の医療専門職として時間の厳守と好ましい態度、身だしなみ等を整えること。授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習・復習はもとより、高齢者を取り巻く問題について新聞やニュース等を意識し、自分なりの考えを深めて下さい。

■オフィスアワー

火曜日

■評価方法

定期試験90%、レポート10%

■教科書

- ・系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
- ・系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)

■参考書

- ・生活機能からみた老年看護過程(医学書院)

科目名	高齢者看護援助論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	丸井 明美 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「高齢者看護学」			
キーワード	生活行動モデル、目標志向型思考、高齢者看護援助技術				

■授業の目的・到達目標

- ①看護過程で用いる生活行動モデルを理解することができる。
- ②高齢者の看護過程を展開することができる。
- ③模擬患者に対して高齢者看護に必要な援助を実践することができる。

■授業の概要

高齢者看護に必要な看護過程と援助技術を教授する。具体的には軽度認知症がある高齢者の事例を用い、生活行動モデルの枠組みに沿って看護過程を展開し、模擬患者に対し高齢者看護に必要な看護援助を実践する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/高齢者の看護過程展開における特徴/高齢者看護に用いられる看護理論/高齢者の看護過程展開における柱となる枠組みについて
第2回	事例展開①情報の整理とアセスメント
第3回	事例展開②病態・生活関連図、看護の焦点の明確化・優先順位の決定
第4回	事例展開③看護計画の立案/実施/修正
第5回	援助技術演習①フィジカルアセスメント、移乗、移動、体位変換等
第6回	援助技術演習②清潔ケア、排泄ケア、褥瘡ケア等
第7回	援助技術演習③口腔ケア、嚥下促進運動等
第8回	高齢者看護過程と援助技術のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講に関わる情報〕

それぞれの内容ごとに課題を出すため提出期限は必ず厳守すること。援助技術演習はコマ続きで実施するため欠席が無いよう体調管理に万全を期すこと。

〔受講のルール〕

わからないことはそのままにせず積極的に質問すること。将来の医療専門職として時間の厳守と好ましい態度、身だしなみ等を整えること。授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。演習の服装等については授業の中で指示する。手書きの課題は読みやすい字で丁寧に書くこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

看護演習では、基礎看護学で学習した基本的な援助技術を高齢者の加齢変化を加味し応用して実践するため、生活援助の知識等について復習が必要である。

■オフィスアワー

火曜日

■評価方法

看護過程の課題60%、援助技術演習の参加度、積極性、手技、記録内容40%

■教科書

- ・系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
- ・生活機能からみた老年看護過程(医学書院)

■参考書

必要に応じて適宜指示する

科目名	在宅看護援助論	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「在宅看護論」			
キーワード	在宅看護、訪問看護、対象別在宅看護、ケアマネージメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
在宅療養者とその家族を理解し、在宅看護の援助方法とケアマネージメントについて学ぶ。

〔到達目標〕

- ①在宅看護の対象、活動の場が理解できる。
- ②在宅看護におけるコミュニケーションの取り方が理解できる。
- ③疾患別の在宅療養者の特徴とその看護を理解できる。
- ④在宅看護における看護過程の展開方法が理解できる。
- ⑤社会資源の活用とケアマネージメントが理解できる。

■授業の概要

在宅看護の対象、活動の場、各領域疾患別の在宅看護の実際、アセスメントの方法、コミュニケーションの取り方、社会資源の活用とケアマネージメントの実際を学習する

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、在宅看護の対象、方法
第2回	在宅看護におけるコミュニケーション
第3回	在宅療養者と家族、家族支援
第4回	社会資源の活用[1] 在宅看護に関係する諸制度、関連職種
第5回	社会資源の活用[2] 介護保険制度と訪問看護
第6回	対象別在宅看護[1] 脳血管疾患患者
第7回	対象別在宅看護[2] 難病患者
第8回	対象別在宅看護[3] 認知症患者
第9回	対象別在宅看護[4] 感染症
第10回	対象別在宅看護[5] 在宅ターミナルケア
第11回	対象別在宅看護[6] 精神障がい者
第12回	ケアマネージメント
第13回	在宅での看護過程の展開
第14回	在宅看護過程演習
第15回	在宅看護過程演習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講に関わる情報〕
予習：テキストを読んでくる。復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。介護保険サービスの名称・内容は覚えること。

〔受講のルール〕
・時間の厳守と身だしなみに気を付ける。
・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・本科目の基礎である在宅看護学概論を復習しつつ、授業に臨むよう心がけること。
・病院・施設看護に対して、看護が行われる場合は地域・家庭であり、その対象が患者本人のみならず、介護者・家族を含むことを常に意識した学習をしてほしい。
・現在の社会情勢のなかで、頻りに在宅医療・看護・介護問題がマスコミで報じられているので、新聞・テレビ等からの情報に常に関心を持って学習に臨んでもらいたい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験70%、課題レポート30%を総合的に評価する

■教科書

杉本正子、真船拓子編：在宅看護論 実践をこばに 第5版、ヌーヴェルヒロカワ、2008

■参考書

随時、紹介する。

科目名	在宅看護援助技術	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「在宅看護論」			
キーワード	在宅看護、訪問看護、対象別看護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

在宅で療養する患者に対して行う看護の基礎的な技術を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①在宅における安心・安楽、経済性に配慮した日常生活の援助や看護技術を理解する。
- ②在宅生活を可能にする医療機器などを用いた治療法における看護技術と看護師の役割を理解する。

■授業の概要

在宅療養者に必要な看護技術について、講義及び実技を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、在宅看護の対象とその特徴、在宅看護の機能とその進め方
第2回	在宅看護の基本技術 観察とフィジカルアセスメント
第3回	在宅看護の基本技術 日常生活の援助 [1] 食事
第4回	在宅看護の基本技術 日常生活の援助 [2] 排泄
第5回	在宅看護の基本技術 日常生活の援助 [3] 清潔
第6回	在宅看護の基本技術 日常生活の援助 [4] 移動と活動、住環境の整備
第7回	在宅での医療処置と看護 [1] 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、気管切開・吸引、褥瘡
第8回	在宅での医療処置と看護 [2] 経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、ストーマケア
第9回	在宅看護過程の展開 事例演習 身近にある物品を工夫した日常生活援助①
第10回	在宅看護過程の展開 事例演習 身近にある物品を工夫した日常生活援助②
第11回	演習 Aグループ 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法、吸引・吸入① / Bグループ 基本動作の介助法、訪問マナー①
第12回	演習 Aグループ 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法、吸引・吸入② / Bグループ 基本動作の介助法、訪問マナー②
第13回	演習 Aグループ 基本動作の介助法、訪問マナー① / Bグループ 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法、吸引・吸入①
第14回	演習 Aグループ 基本動作の介助法、訪問マナー② / Bグループ 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法、吸引・吸入②
第15回	演習発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実技演習では各種物品を用いるので、準備、後片付け等学生の役割を果たすこと。
- ・器具類は安全、且つ丁寧に扱うこと。

〔受講のルール〕

- ・時間の厳守と身だしなみに気を付ける。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・それぞれの授業のテーマについて、既習の人体構造機能学、関連疾病論をよく学習しておくこと。
- ・基礎看護、成人、老年、小児看護等の技術演習を在宅へ適応できるよう、既習の演習を復習するなどして知識を活用すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験、課題レポートで行う

■教科書

岡崎美智子、正野逸子編集：根拠がわかる在宅看護技術、メジカルフレンド、2010

■参考書

押田真喜子：写真でわかる訪問看護 改訂2版、インターメディカ、2011

科目名	地域看護学概論	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	地域看護 公衆衛生看護 在宅看護 生活の場 看護職の役割				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕 地域看護学の各分野とその概念、活動の場、および地域における看護職の役割を学ぶ。

〔到達目標〕

- ① 地域看護・公衆衛生看護の概念と歴史的・社会的背景を理解し、地域看護活動の在り方を考えることができる。
- ② 人々の健康問題を環境・健康レベル・ライフステージ・個と集団等の側面から学び、看護の役割を理解できる。
- ③ 地域看護活動の場と諸分野を学び、健康レベルに対応した看護機能、及び施設看護との相違を理解できる。

■授業の概要

授業は講義を主とする。テーマによってはDVD等の視聴覚教材も使用する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	◇科目オリエンテーション ・地域看護の概念 1) 地域看護の目的 2) 地域看護の定義
第2回	・地域看護活動の場と分野 1) 公衆衛生看護 2) 在宅看護 3) 学校看護 4) 産業看護
第3回	・地域看護の歴史と社会的背景
第4回	・人々の生活と地域看護の役割〔1〕 1) 人々の健康に影響するもの 2) ライフステージと健康問題
第5回	・人々の生活と地域看護の役割〔2〕 3) 健康レベルと看護活動 4) 個人・家族・集団の健康問題と看護職の役割
第6回	・WHOの保健戦略 1) プライマリーヘルスケア 2) ヘルスプロモーション 3) 日本におけるヘルスプロモーションの展開
第7回	・地域保健福祉行政と地域健康施策 1) 保健医療福祉行政のしくみ 2) 保健医療福祉に関する計画
第8回	・保健医療福祉の連携とケアコーディネーション ・地域看護活動の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・既修の関連科目(社会学、社会保障制度、社会福祉制度等)の復習をして、臨んでください。
- ・自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。
- ・教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ・変更がある場合は前の週の授業か掲示で知らせるので、常に注意を払ってください。
- ・遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

各自の居住市町村の健康日本21計画(健康〇〇21)を調べる

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験、課題レポート、受講態度により評価する。

■教科書

地域看護学 津村智恵子編著 中央法規出版 国民衛生の動向

■参考書

随時提示する

科目名	地域看護学活動論	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子 他	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	2年後期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「公衆衛生看護学」			
キーワード	地域看護活動 活動の展開 健康支援 個別的援助 集团的援助 健康課題				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕 ・看護師の活動対象が病気・障害のある人々から健康な人々まで広がっている現状において、多様な健康支援の方法を理解する。 地域において看護職が行う個人、家族、集団、コミュニティを対象とする健康支援の理念と知識・技法を学ぶ。
〔到達目標〕 ①健康とQOLの維持向上を目指す地域看護活動のあり方が理解できる。 ②健康問題をライフステージ、健康レベル、集団の特性から捉え、対象の健康特性に応じた援助方法を選択し、援助計画の作成・評価の方法が理解できる。 ③地域看護活動に必要な知識と技法の基本を習得する。

■授業の概要

地域で生活する人々への健康支援の方法を講義演習をととして学習する。 ・個別、グループ、集団への支援 ・ライフステージ別対象(母子、思春期、成人期・高齢期)、課題別対象(精神、難病、感染症、災害)に対する支援 ・根拠法制度の理解。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。	
第1回	・科目オリエンテーション
第2回	・地域看護活動の展開方法〔1〕 1) 展開プロセス 2) 健康支援(保健指導)
第3回	・地域看護活動の展開方法〔2〕 3) 個人と家族を対象とする活動(1) 家庭訪問
第4回	・地域看護活動の展開方法〔3〕 4) 個人と家族を対象とする活動(2) 健康相談、健康診査
第5回	・地域看護活動の展開方法〔4〕 5) 集団やコミュニティを対象とする活動 健康教育・学習、地域組織活動
第6回	・母子保健活動〔1〕 母子保健の動向、理念、わが国の母子保健
第7回	・母子保健活動〔2〕 母子保健活動の実際
第8回	・成人高齢者保健活動〔1〕 成人・高齢者保健の動向、理念、成人保健施策
第9回	・成人高齢者保健活動〔2〕 成人期・高齢期の生活と健康課題、生活習慣病と保健指導
第10回	・成人高齢者保健活動〔3〕 難病者地域保健福祉活動
第11回	・障害者地域保健福祉活動 精神障害者・身体障害者
第12回	・地域看護活動の実際〔1〕
第13回	・地域看護活動の実際〔2〕
第14回	・地域看護活動の実際〔3〕
第15回	・地域看護活動の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

・自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。 ・教科書・プリント等は毎回持参してください。 ・変更がある場合は前の週の授業か掲示で知らるので、常に注意を払ってください。 ・遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。
--

■授業時間外学習にかかわる情報

・既修の関連科目(特に地域看護学概論、社会学、社会保障制度、社会福祉制度等)の復習をして、臨んでください。 ・毎回復習をしっかりと、学びを自分のものにする事を期待します。
--

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験、課題レポート、受講態度により評価する

■教科書

公衆衛生看護学 津村智恵子他編著 中央法規出版 国民衛生の動向

■参考書

金川克子編:最新保健学講座3 公衆衛生看護学活動論①ライフステージの特性と保健活動.メヂカルフレンド社、2012 金川克子編:最新保健学講座4 公衆衛生看護学活動論②心身の健康問題と保健活動.メヂカルフレンド社、2012
